



診療のご案内

地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立八幡病院

令和2年度

Kitakyushu City Yahata Hospital

北九州市立八幡病院 診療のご案内

基本理念

私たちは、24時間質の高い医療を提供し、
皆様に、安心、信頼、満足して頂ける病院を目指します。

基本方針

1. 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行います。
3. 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。
4. 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。
5. 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。



患者の権利と義務

■患者の権利

1. 人格、価値観等が尊重され、良質な医療を公平に受けることができます。
2. 病気、検査、治療等について、理解しやすい言葉や方法で、十分な説明と情報提供を受けることができます。
3. 検査・治療等について自らの意思で選択、同意、拒否することができます。
4. 現在の検査・治療等について、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。
5. プライバシーは守られ、医療上の個人情報は保護され、自分の診療記録の開示を求めることができます。

■患者の義務

1. 良質で安全な医療を実現するために、ご自身の健康に関する情報を正確に提供してください。
2. 十分な理解と納得の上で、ご自身の治療に積極的に協力してください。
3. 他の患者さんの診療、治療に支障をきたさないように、院内規則や社会規律を守ってください。

CONTENTS

ご挨拶	2	院内センター	
病院概要	4	救命救急センター	36
診療案内		消化器・肝臓病センター	38
内科	10	災害外傷外科、外傷・ 形態修復・治療センター	39
循環器内科	12	災害医療作戦指令センター・ 災害医療研修センター	41
小児科	13	小児救急・小児総合医療センター	43
外科	15	診療支援部・看護部・医療連携室	
脳神経外科	19	薬剤課	48
整形外科・リハビリテーション科	20	臨床検査技術課	49
形成外科	21	放射線技術課	50
麻酔科	22	リハビリテーション技術課	51
耳鼻咽喉科	23	栄養管理課	52
眼科	24	臨床工学課	53
精神科	25	看護部	54
泌尿器科	26	感染対策研修センター・感染制御室	56
皮膚科	27	医療連携室	57
婦人科	28		
放射線科	29		
救急科	30		
歯科	31		
臨床検査科	32		
初期研修医	33		

院長挨拶



院長 伊藤 重彦

北九州市立八幡病院は、2018年12月の新築移転から早くも1年半が経過しました。今年度も、(1)救命救急医療、(2)小児救急医療、(3)災害医療を政策医療に掲げ、受診された皆様方が安心して、「もう一度受診したい」と思うような、心の和む、そして信頼される病院を目指して職員一同がんばる所存です。ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年は3月以降、新型コロナウイルス感染症の世界流行、国内流行に伴い、北九州市からの要請で、時限的ではありますが、新型コロナウイルス感染症に対応するための院内体制を新たに整備しました。第二種感染症指定医療機関である北九州市立医療センター以外では、北九州市で最初となる帰国者・接触者外来を3月1日に設置しました。また、4月1日より新型コロナウイルス感染症患者の入院受入れを開始し、4月20日からは6階病棟を新型コロナウイルス感染者の専用病棟に変更し、最大18床の感染者受入れ病床を確保しました。複数の救急病院でクラスターが発生したことから、救急搬送患者に対してはN95マスクを含むウイルスのエアゾル拡散へ対応しながら診療を行っています。また、入院患者に対してLAMP法による核酸増幅検査を積極的に行い、院内感染防止に努めています。

次に、当院の新たな救急医療体制について少しご紹介します。令和2年度から、病院に所属する救急救命士(病院救命士)を救急科に配置しました。消防救急車に代わる介護施設と病院間の転院搬送手段として、病院救命士が搭乗する病院救急車を地域で活用して頂ければと考えています。当院の屋上ヘリポートは、離陸加重10トンに耐える県内屈指のヘリポートで、海上保安庁の大型ヘリが離発着可能です。令和2年4月から、第7管区海上保安部本部の航空基地が福岡空港から北九州空港へ移転したことを契機に、海難事故傷病者の受入れ病院、海上保安庁所属の救急救命士の実習病院の役割を担っています。

この巻頭言を書いている7月中旬においては、東京都、大阪府、京都府、福岡県の1日の感染患者数は第1波を凌いでおり、まさに第2波の入口にいます。本紙が皆様のもとへ届く頃には、感染症流行が落ち着いていることを祈っています。北九州市立八幡病院は、地域医師会、近隣の医療機関と連携を密にしながら、地域に根ざした医療提供を行ってまいります。これからも皆さま方のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

幹部紹介

外科



副院長 おかもと こうじ
岡本 好司

小児科



副院長 あまもと まさの
天本 正乃

循環器内科



副院長 うらべ よしとし
浦部 由利

形成外科



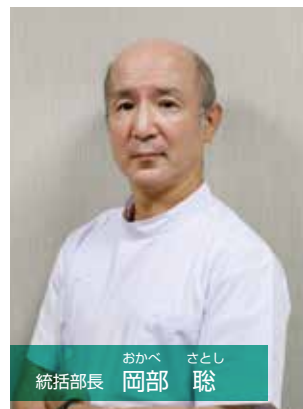
統括部長 たさき ゆきひろ
田崎 幸博

外科



統括部長 きどがわ ひでお
木戸川 秀生

整形外科



統括部長 おかべ さとし
岡部 聡

小児科



統括部長 かみぞの じゅんじ
神園 淳司

看護部



看護部長 よしくに さわこ
吉國 佐和子

事務局



事務局長 たかはし ひろし
高橋 浩

病院概要

概要

名称 北九州市立八幡病院
所在地 〒805-8534 北九州市八幡東区尾倉二丁目6番2号
電話番号 093-662-6565 FAX番号 093-662-1796
開設者 地方独立行政法人 北九州市立病院機構
理事長 中西 洋一
開設年月日 昭和38年2月10日
許可病床 350床
稼働病床 312床（うち 集中治療管理室6床・小児集中治療室8床）
ホームページ <https://www.kitakyu-cho.jp/yahata/>



沿革

昭和 5年10月 旧八幡市の前田京町(現西本町)に八幡市立診療所として開設
昭和18年 3月 尾倉の釜蓋町に総合病院として「八幡市民病院」を新築
昭和20年 8月 空襲にて消失
10月 東鉄町の市営産院を市民病院仮病舎に仕立て診療開始
昭和24年 4月 荒生田地区において仮病棟を造設し診療を再開、「国民健康保険直営八幡市立病院」と改称
昭和25年12月 尾倉地区に「八幡市立病院」として本体新築完成
昭和38年 2月 5市合併により、「北九州市立八幡病院」と改称
昭和53年10月 全面改築、救命救急センターを併設
昭和58年 3月 救命救急センター増築
平成 2年 3月 手術室増築
平成 4年 4月 循環器科を新設し心臓カテーテル室を整備
平成 6年 7月 ドクターカー運用開始
9月 一般外来診療部門増改築
平成 7年 7月 第2夜間・休日急患センター開設
平成 8年 1月 精神科新設
10月 第2夜間・休日急患センター新棟完成
平成 9年10月 呼吸器外科新設
平成11年 5月 立体駐車場完成
平成15年10月 小児救急センター併設
平成20年 6月 救急ワークステーション開設
平成30年12月 現在地へ病院を新築移転

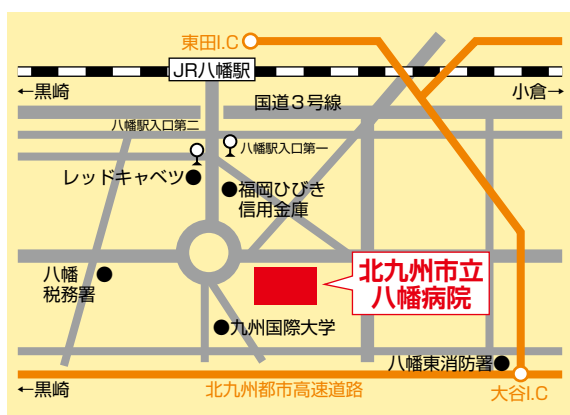
標榜診療科目

内科、循環器内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、
内視鏡外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、
救急科、麻酔科、精神科、歯科、リハビリテーション科、臨床検査科

各種施設認定

救命救急センター 救急告示病院 地域災害拠点病院 臨床研修指定病院 地域医療支援病院

アクセス



JR鹿児島本線 八幡駅から徒歩9分

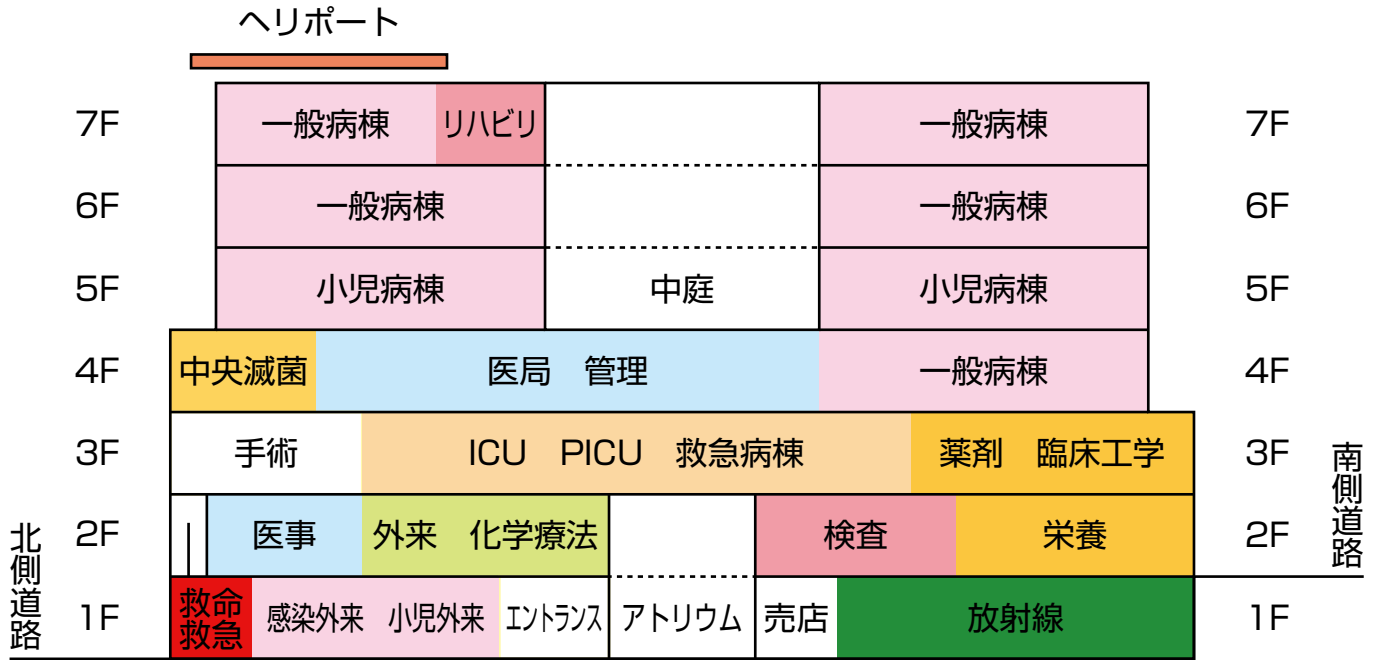
西鉄バス 「市立八幡病院」病院敷地内
「八幡駅入口第一・第二」から徒歩6分

都市高速道路 大谷インターから車で5分
東田インターから車で5分



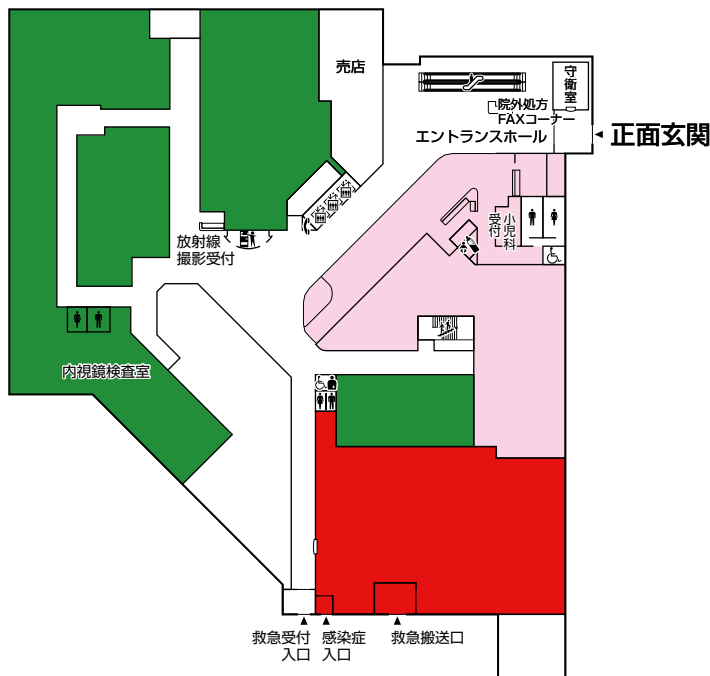
フロアー図

全館案内図

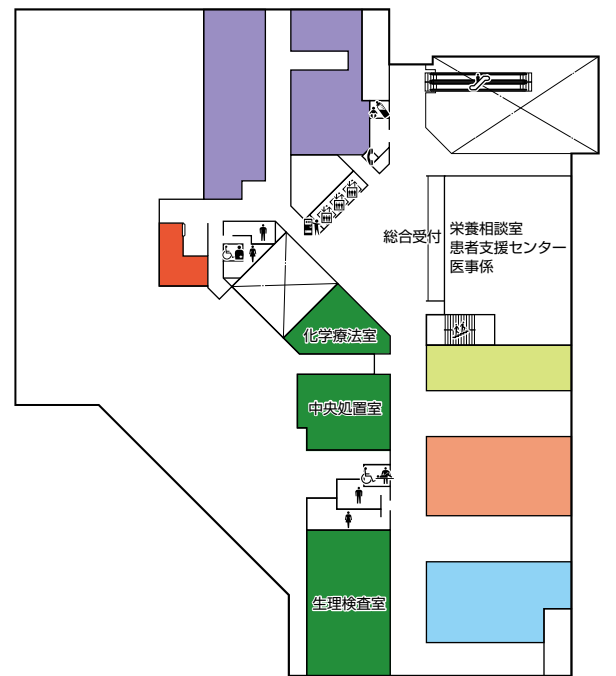


外来案内図 (1階~2階)

【1階】



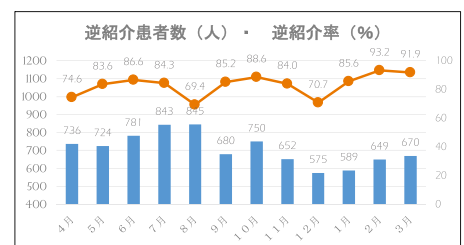
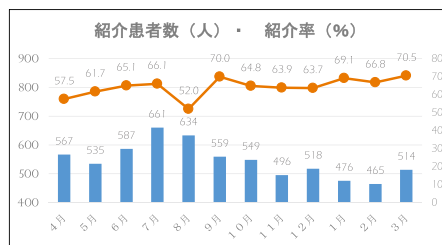
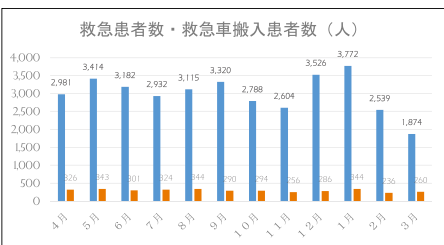
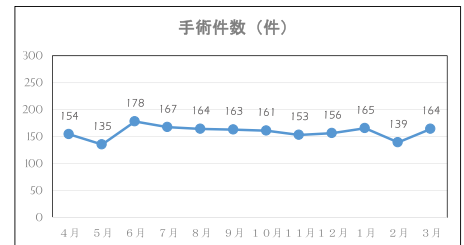
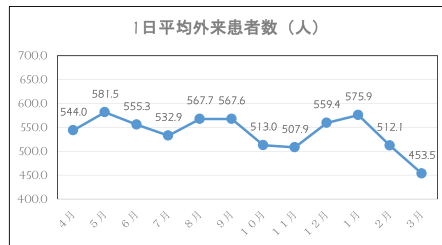
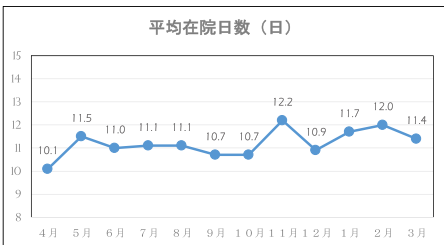
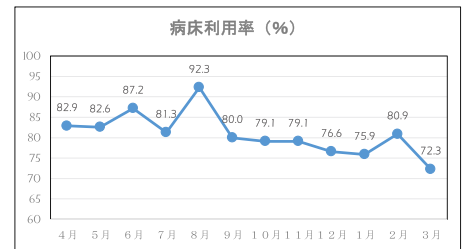
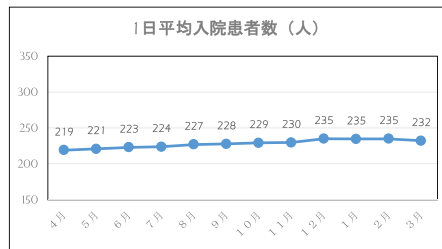
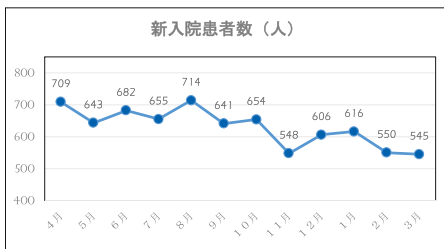
【2階】



- | | | | |
|----------|--------|------------------|--|
| 男性トイレ | 多目的シート | 小児科 | 救急科 災害外傷外科、外傷・形態修復・治療センター |
| 女性トイレ | 授乳室 | 精神科 | 婦人科 眼科 ベイクリニク 歯科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 |
| 多目的トイレ | 公衆電話 | 内科 循環器内科 心不全センター | 外科 呼吸器外科 消化器外科 小児外科 消化器・肝臓病センター 形成外科 皮膚科 |
| オストメイト対応 | 自動販売機 | 整形外科 脳神経外科 | |

令和元年度 病院実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新入院患者数 (人)	709	643	682	655	714	641	654	548	606	616	550	545
1日平均入院患者数 (人)	219	221	223	224	227	228	229	230	235	235	235	232
病床利用率 (%)	82.9	82.6	87.2	81.3	92.3	80.0	79.1	79.1	76.6	75.9	80.9	72.3
平均在院日数 (日)	10.1	11.5	11.0	11.1	11.1	10.7	10.7	12.2	10.9	11.7	12.0	11.4
1日平均外来患者数 (人)	544.0	581.5	555.3	532.9	567.7	567.6	513.0	507.9	559.4	575.9	512.1	453.5
手術件数 (件)	154	135	178	167	164	163	161	153	156	165	139	164
救急患者数 (人)	2,981	3,414	3,182	2,932	3,115	3,320	2,788	2,604	3,526	3,772	2,539	1,874
うち救急車搬入患者数 (人)	326	343	301	324	344	290	294	256	286	344	236	260
紹介患者数 (人)	567	535	587	661	634	559	549	496	518	476	465	514
紹介率 (%)	57.5	61.7	65.1	66.1	52.0	70.0	64.8	63.9	63.7	69.1	66.8	70.5
逆紹介患者数 (人)	736	724	781	843	845	680	750	652	575	589	649	670
逆紹介率 (%)	74.6	83.6	86.6	84.3	69.4	85.2	88.6	84.0	70.7	85.6	93.2	91.9



診療科の紹介



内科

主任部長 すえなが 末永 あきひと 章人

専門医等

日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医
日本神経学会 専門医・指導医
日本神経治療学会
日本神経免疫学会

卒年

昭和61年



診療科の紹介

外来は呼吸器・消化器・神経・腎臓・甲状腺・膠原病・一般内科外来を設置しています。また、できる限り救急患者の受け入れをおこなっています。これからも、地域との連携を深め質の高い医療を提供できるようスタッフ一同努力いたします。

【呼吸器内科】

呼吸器内科は常勤医3名と非常勤医4名の計7名で診療しています。当院の救急病院としての特色を活かし、呼吸器感染症・気管支喘息・COPD（慢性閉塞性肺疾患）・間質性肺炎を中心に急性呼吸不全及び慢性呼吸不全の急性増悪などの救急患者に対応しています。

また慢性呼吸不全に対しての在宅酸素療法の導入に加えて、薬剤師・看護師・理学作業言語療法士・MSWを含めた多職種連携による外来・入院における呼吸器リハビリや、近年では呼吸器診療に欠かすことのできない吸入薬に対する患者指導も積極的に行っています。

また、睡眠時無呼吸症候群に対しての終夜睡眠ポリグラフ検査及びCPAP療法の導入にも対応し、幅広い呼吸器診療を心がけています。

さらに重症気管支喘息の新たな治療法として保険収載された気管支熱形成術も行っております。

【消化器内科】

非常勤医2名にて消化器疾患の外来診療（毎週火・木曜日）をおこなっています。上下部消化管内視鏡検査は消化器外科や非常勤医師の応援で行っています。

【甲状腺】

非常勤医師1名により、バセドウ病等の甲状腺疾患の外来診療をしています。

【脳神経内科】

中枢神経（脳・脊髄）から、末梢神経、筋肉に至るさまざまな病気を対象にしています。頭痛、しびれ、ふるえ、めまい、筋力低下などの診断・治療のほか、神経救急疾患（脳血管障害、脳炎、髄膜炎、ギランバレー症候群など）や、パーキンソン病をはじめとした神経難病についても診療に当たっています。

【膠原病・リウマチ科】

毎週金曜日に専門外来として開設しています。慢性関節リウマチをはじめとした膠原病を広く診断治療しています。多系統領域にまたがる疾患ですので、当院の複数の専門科と協力しながら診療を行っています。重症例は、産業医大第一内科と連携して治療を行います。膠原病の病初期の判断は困難なことが多いのですが、この時期の治療の重要性も確認されています。疑わしい症例は、ご遠慮なくご紹介下さい。

【腎臓内科】

月、火、木の週3回腎臓内科の外来診療をしています。

検診などで血尿や蛋白尿などの尿異常や、糖尿病性腎症、薬剤性腎障害、腎実質性高血圧、高尿酸血症など、腎臓病の保存期を中心に治療を行っています。当院では維持透析は行っておりませんので、末期腎不全に至った患者様は適切な医療機関へご紹介いたします。また、重症例や腎生検診断が必要な場合、産業医科大学腎臓内科と連携していますのでご紹介いたします。腎生検診断後の治療継続は、当院でも副腎皮質ホルモンや免疫抑制剤などによる治療が可能ですのでご紹介ください。

主な検査・治療

<気管支鏡検査>

気管・気管支病変及び肺内病変に対しての気管支鏡検査を行っています。ほぼ全例鎮静薬の投与下に検査を行うことによって苦痛をできる限り与えないように心がけています。原則1泊2日の入院で検査を行っています。

主に腫瘍性病変に対しての経気管支肺生検・擦過細胞診、びまん性肺疾患に対しての気管支肺胞洗浄検査などを行っています。また適応症例に対しての気管支充剤（EWS）の留置なども行っており幅広い疾患に対応しています。オリンパス社製の最新ビデオスコープ（290シリーズ）及び超音波システム（ガイドシース併用気管支内腔超音波断層法）が導入されており優れた診断精度での検査が提供できるよう努めています。

2019年末より新たにコンベックス走査式超音波気管支鏡（BF-UC290F）を導入したことにより縦隔リンパ節を含めた気管支周辺組織の超音波気管支鏡下吸引針生検（EBUS-TBNA）が実施可能となり、気管支鏡検査における適応疾患がさらに拡大しています。

<局所麻酔下胸腔鏡検査>

一般的な胸水検査では診断をつけることが出来ない胸水に対して局所麻酔下での胸腔鏡検査を施行しています。胸腔内の観察及び壁側胸膜の生検・細胞診を行うことにより原因診断を行っています。主に癌性胸膜炎・悪性胸膜中皮腫・結核性胸膜炎などの診断に有用です。

<気管支熱形成術（気管支サーモプラスティ）>

重症気管支喘息の治療を目的とした気管支鏡下の手技です。高用量の吸入ステロイド薬及び長時間作用型 β_2 刺激薬の投与下でも喘息症状がコントロール困難な重症患者に対して症状緩和を目的として行います。

気管支鏡を通して電極付カテーテルを気管支内に誘導し、高周波により気管支を65度に温めます。気管支全体を3つのブロックに分けて3週間以上の間隔を空けて計3回の入院治療により処置を行います。加熱処置により気管支平滑筋量を減少させ気管支の収縮を抑制することで気管支喘息発作が減少するとされています。少なくとも5年間の治療効果の持続が期待できます。

<終夜睡眠ポリグラフ検査>

毎週水曜日に1泊2日の個室入院により終夜睡眠ポリグラフ検査を行っています。睡眠時無呼吸などの睡眠障害に対する精密検査を行います。検査目的の紹介は内科外来にて随時受け付けています。

<腹部超音波>

月曜日と木曜日に、腹部エコー全般、体表エコー（頸部耳鼻科領域、甲状腺・副甲状腺、体表皮膚科領域）を行っています。非侵襲的な検査の代表です。小児から高齢の患者まで、状態の悪い場合も含めて検査できます。また、北九州の超音波検査の普及や高度化にも力を入れております。各医院でのスタッフ養成についてもお尋ね下さい。

<神経伝導速度・筋電図>

しびれや筋萎縮などの原因を調べるために、電気刺激を用いて神経のどこが障害されているかを調べることができます。手根管症候群や肘部管症候群などの末梢神経障害が良い適応です。また、筋肉に直接針を刺して筋萎縮の原因を調べる針筋電図もおこなっています。

内科 スタッフ紹介

内科部長 星野 鉄兵 (ほしの てつべい)

卒年 平成18年

専門医等

日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医／日本呼吸器学会 専門医／日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医／日本がん治療認定医機構 がん治療認定医／日本結核病学会 結核・抗酸菌症指導医／肺がんCT検診認定機構 認定医師／ICD制度協会 インフェクションコントロールドクター／日本肺癌学会／日本呼吸ケアリハビリテーション学会

内科副部長 森 雄亮 (もり ゆうすけ)

卒年 平成25年

専門医等

日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医／日本呼吸器学会 呼吸器専門医／日本がん治療認定医機構 がん治療認定医／日本結核病学会 結核・抗酸菌症認定医／ICD制度協会 インフェクションコントロールドクター／日本呼吸器内視鏡学会／日本感染症学会

内科副部長 磯嶋 佑 (いそしま ゆう)

卒年 平成27年

専門医等

日本内科学会
日本呼吸器学会
日本呼吸器内視鏡学会

(嘱託医) 宮崎 三枝子 (みやざき みえこ)

卒年 平成14年

専門医等

日本内科学会 認定内科医／日本腎臓病学会 専門医／
日本透析学会 専門医／日本骨粗鬆症学会

循環器内科

主任部長 たなか 田中 せいや 正哉

専門医等

日本内科学会 認定内科医
日本循環器学会 専門医
日本心臓リハビリテーション学会
日本医師会認定産業医

卒年

平成2年



診療科の紹介

循環器内科では、心臓の病気や大動脈および末梢血管の病気を専門に診ています。心不全、狭心症、不整脈、心臓弁膜症、心筋症などの心臓疾患や、大動脈、肺動脈、四肢動脈などの血管疾患が主な対象です。これらの疾患の原因となる高血圧や高脂血症などの生活習慣病の早期介入や予防にも力を入れております。

取り扱う主な疾患

急性・慢性心不全

冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）

心筋症（拡張型心筋症、肥大型心筋症等）

心臓弁膜症（大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症等）

不整脈疾患（心房粗動、心室性期外収縮等）

末梢動脈疾患（下肢動脈閉塞、深部静脈血栓症等）

肺高血圧症（特発性肺動脈高血圧症、慢性血栓塞栓性肺高血圧症等）

脂質異常症（家族性コレステロール血症、混合型高脂血症等）

当科の特徴

北九州、特に我が八幡東区を中心とした地域は全国的にも最も高齢化が進んでいるといわれています。我々が最も高齢化社会において危機感を抱いている課題は心不全リピーターの増加です。当院の心不全症例は90%以上が65歳以上の高齢者で10%は90歳以上が占めています。2015年までは心不全症例全体の50%前後がリピーターでしたが、2018年の統計ではリピーターの割合は21%まで減少していました。

心臓リハビリテーションを始めとした非薬物治療の体系化が功を奏しており、フレイルの予防にも一役買っていると思われます。

もちろん心不全の原因は多岐に渡りますので、虚血性心臓病（冠動脈造影、冠動脈ステント留置術など）弁膜症の診断（心エコー、カテーテル検査など）不整脈疾患（カテーテルアブレーション、デバイス植え込み術など）に対する介入は備えています。

診療実績

治療実績	2016年	2017年	2018年	2019年
冠動脈カテーテル検査 (診断のみ)	261	288	217	102
冠動脈カテーテル治療 ()は緊急症例	105 (26)	92 (26)	75 (23)	31 (9)
ペースメーカー植込み ()は新規	22 (15)	28 (20)	40 (27)	20 (12)
カテーテルアブレーション	10	12	17	0
末梢動脈カテーテル治療	33	26	26	29
腎動脈ステント治療	9	6	4	4
心筋生検	2	1	1	0
心臓リハビリテーション (単位数)	6491	5464	6202	5767

循環器内科 スタッフ紹介

副院長 浦部 由利 (うらべ よしとし)

卒年 昭和55年

専門医等

日本内科学会 認定内科医・指導医／日本循環器学会 専門医／日本心血管インターベンション治療学会 名誉専門医／日本心臓血管内視鏡学会 認定医／日本心臓リハビリテーション 指導士

(非常勤) 池内 雅樹 (いけうち まさき)

卒年 平成11年

専門医等

日本内科学会 認定内科医／日本循環器学会 専門医／日本心不全学会／日本心臓病学会／日本睡眠学会

小児科

いまむら のりお
主任部長 今村 徳夫

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医
日本小児救急医学会
日本夜尿症学会

卒年

平成元年



診療科の紹介

小児がんの治療成績は、化学療法（抗がん剤、免疫抑制剤、生物学的製剤）、外科的手術、放射線照射からなる集学的治療の発展に伴って過去40年間に劇的に向上し、現在では約80%の患者さんが治癒するようになりました。その一方で、標準的治療では治癒の得られない再発・難治性の患者さんも一定の割合で存在します。このため標準リスクの患者さんには安全で確実な治療が、難治性の患者さんには治癒の可能性を少しでも上げるために造血細胞移植など専門性の高い治療が求められています。当院小児科では2018年4月に小児がんを専門的に診療する小児血液腫瘍・造血細胞移植センターを立ち上げました。

取り扱う主な疾患

①血液腫瘍

急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫などに対する化学療法を行っています。

②その他の血液疾患

小児がんの他に、再生不良性貧血や溶血性貧血など赤血球の異常、好中球減少症など白血球の異常、血小板減少症など血小板の異常、凝固因子の異常といった非腫瘍性血液疾患の診療をしています。

③固形腫瘍

脳腫瘍以外の固形腫瘍に対する化学療法も行っています。より専門的な手術や放射線治療が必要な場合は、診療協力施設に紹介・治療連携をしています。

当科の特徴

当科は日本小児血液・がん学会の専門医研修施設として認定されており、同学会や日本血液学会、日本造血細胞移植学会の専門医や指導医資格をもつ3名の小児科医師を中心に診療を行っています。

小児がんは致死性疾患であると同時に稀少疾患であり、治療法に関しては標準治療として確立されている治療法や患者さんへの利益が大きいと考えられる臨床試験での治療など、疾患の種類や病期によって最も適切な治療法を選択しています。上述のような再発・難治性の患者さんに対しては、適応を慎重に判断したうえで造血細胞

移植を行っています。

小児がん患者さんは抗がん剤や免疫抑制剤の治療により容易に免疫不全状態に陥り、重症感染症を発症するリスクを負っていますが、当センターでは小児科病棟内の10床の個室からなる清浄度の高いprotective environment（防護環境、慣例的にクリーンエリアと呼んでいます）内で化学療法を行っています。そのうち2床は白血球数や免疫機能が極度に低下する造血細胞移植に対応した規格になっています。

小児がんの治療は長期間にわたり、様々な身体的・精神的苦痛や社会的困難が伴います。当センターでは、患者さんと御家族の負担を少しでも軽減できるよう、医師、看護師だけでなく薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学士、栄養管理士、医療ソーシャルワーカー、保育士、臨床心理士、子ども療養支援士、院内学級教師、その他多くのスタッフが協力してチーム医療を行っています。

診療実績

※小児血液腫瘍・造血細胞移植に関わる実績

2019年度は14例の新規診断患者さんを含む19人の患者さんに化学療法を行いました。そのうち3人の再発・難治性の白血病患者さんに血縁ドナーから末梢血幹細胞移植を行いました。

年度	化学療法、免疫抑制療法をおこなった新規診断症例
2017年度	急性リンパ性白血病1例、急性骨髄性白血病2例
2018年度	急性リンパ性白血病3例、悪性リンパ腫1例、再生不良性貧血1例
2019年度	急性リンパ性白血病8例、急性骨髄性白血病1例、固形腫瘍3例、ランゲルハンス細胞組織球症1例、再生不良性貧血1例

小児科

主任部長 たかの 高野 けんいち 健一

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医
日本小児感染症学会
日本薬理学会
医学博士

卒年

平成13年



クリーンエリアについて

新病院5階B病棟（小児病棟）内にはprotective enviroment（防護環境）と呼ばれるエリア（慣例的にクリーンエリアと呼んでいます）があり、10床の病室があります。ここでは、感染症に対する抵抗力の弱い子供達が治療を受けています。おもに再生不良性貧血や好中球減少症などの血液疾患や免疫不全症、白血病や悪性リンパ腫をはじめとする小児がんの患者さんが対象になります。この病室内にはHEPAフィルターと呼ばれるフィルターを通してきれいな空気が送り込まれ、外部からの空気流を防ぐために部屋の中は陽圧になっており、1日に数回換気が行われることで空気清浄度が維持されています。10床のうち2床はより高い清浄度が保たれており、骨髄移植や臍帯血移植など抵抗力が極端に下がる治療を行います。クリーンエリアに入る時は、スタッフだけではなく患者さんと面会者にも手洗い・消毒とマスク着用をお願いしています。ただし、一昔前の「無菌室」のイメージとは違って、宇宙服のようなガウンやキャップを着用する必要はなく、病室内では普通に患者さんと接していただけます。患者さんは調子が良ければ病室の外へ出て他の患者さんと遊んだりできます。



中庭



ファミリールーム



プレイルーム



無菌室

小児血液腫瘍・造血細胞移植 スタッフ紹介

小児科部長 稲垣 二郎（いながき じろう）

卒年 平成9年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医／日本血液学会 専門医・指導医／日本小児血液・がん学会 専門医・指導医／日本造血細胞移植学会 移植認定医／日本血液学会 評議員／日本小児血液・がん学会 評議員／日本造血細胞移植学会 評議員

小児科部長 興梠 雅彦（こうりき まさひこ）

卒年 平成12年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医／日本血液学会 専門医／日本がん治療学会 認定医／日本造血細胞移植学会 移植認定医

外科 (一般)

やまよし たかとも
主任部長 **山吉 隆友**

専門医等

日本外科学会 専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本消化器病学会 専門医
日本外傷学会 専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本外科感染症学会 外科周術期感染管理認定医
日本腹部救急医学会 認定医
ICD制度協会 インフェクションコントロールドクター

卒年

平成7年



診療科の紹介

外科の本年度スタッフは、伊藤重彦院長、岡本好司副院長、木戸川秀生統括部長、井上征雄呼吸器外科主任部長、新山新小児外科主任部長、山吉隆友外科主任部長、野口純也消化器外科主任部長、上原智仁、山内潤生、長尾祐一、榊原優香、田嶋健秀の12名の体制にて診療を行っております。

取り扱う主な疾患

良性疾患を中心とした一般外科に加え、消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、救急外科、小児外科という幅広い分野にわたる疾患に対する治療を当科における診療の基盤としております。

当科の特徴

当科では一般外科的疾患に加え、悪性疾患に対しては診断から治療はもちろんのこと、術後治療として適応のある症例に対しては抗癌剤を用いた化学療法などを含む補助療法も胸腹部を問わず積極的に行なっており、日本外科学会、消化器外科学会、呼吸器外科学会、小児外科学会としての維持に加え、当院のがん治療認定医機構における認定研修施設としての認可に寄与しております。また、救急疾患では様々な外傷疾患にも対応しており、外傷専門医研修認定施設としても機能しております。また、一般的な術後経過や敗血症、感染疾患に対しても厳格な術後管理を徹底しており、外科周術期感染管理教育施設としても認定され、日々の総合的研鑽による診療能力向上により皆様のお役に立てるよう日夜努力しております。

診療実績

診療科	主な臓器	主な疾患	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
一般・消化器外科	食道・胃・十二指腸	食道疾患	0	0	0	0	0	1
		潰瘍穿孔	2	2	4	0	2	1
		胃癌・腫瘍性疾患	13	18	16	16	11	6
		その他	3	0	1	4	2	2
	小腸・大腸・肛門	大腸癌・腫瘍性疾患	39	44	39	41	52	27
		イレウス	8	14	8	14	4	12
		小腸・大腸穿孔	1	11	8	1	3	8
		急性虫垂炎	28	31	30	37	29	35
		痔核・痔瘻・肛門疾患	4	7	12	9	13	11
	肝・胆・膵	胆石・総胆管結石	50	35	43	48	45	51
		肝癌・胆嚢癌・膵癌	27	38	43	34	29	34
		急性膵炎・その他	2	2	0	0	2	0
	腹壁疾患・ヘルニア		35	53	36	38	30	55
	腹部外傷		3	1	4	1	1	2
その他		6	8	9	17	7	10	

外科

(消化器外科)

のぐち じゅんや
主任部長 **野口 純也**

専門医等

日本外科学会 専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医
日本消化器病学会 専門医
日本肝臓学会 専門医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医

卒年

平成7年



診療科の紹介

消化器外科はスタッフ9名で診療を行っております。スタッフには外科学会指導医・専門医、消化器外科学会指導医・専門医、内視鏡外科学会技術認定医、消化器病学会指導医・専門医、消化器内視鏡学会指導医・専門医、肝胆膵外科学会高度技能指導医、肝臓学会指導医・専門医、救急科指導医・専門医、外傷専門医、癌治療教育医・認定医等がそろっています。

消化器外科としては胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌等の悪性疾患や胆石症、虫垂炎、鼠径ヘルニア等の良性疾患に対して積極的に手術に取り組んでいます。鏡視下手術も胆嚢摘出のみならず、胃癌、大腸癌を中心に意欲的に取り組んでおり、現在では消化器に関する手術の半数以上を腹腔鏡下に行っています。また、手術適応とならない消化器疾患に対しても当科において柔軟に対応出来る体制に努めています。特に消化器内視鏡学会指導医、専門医のもと、上下部内視鏡検査、胆膵内視鏡検査やそれに関連する処置等も積極的に行ってまいります。

当院は救命救急センターがあるため、急性腹症、腹部外傷等を扱う頻度が高いのが特徴です。麻酔科や手術室の協力のもと、いつでも緊急手術が可能な体制をとっています。また治療に際しては、患者様が思い描く最良の結果を得られるよう、各疾患の診療ガイドラインなども参考にしながら科学的根拠に基づいて手術や治療戦略を立てています。特に悪性疾患の患者様には、不安を取り除くために、病気の程度や手術の内容、あるいは抗腫瘍剤治療の内容や予定など、分かり易く説明を行うことを心掛けています。

新病院では、手術室内に血管造影とCTが同室で出来るハイブリッドオペレーションルームが新設されました。これにより外傷や出血性疾患に対して、より迅速に対応可能となっています。

消化器外科 スタッフ紹介

副院長
消化器・肝臓病センター長 **岡本 好司** (おかもと こうじ)

卒年 昭和60年

専門医等

日本外科学会 専門医・指導医/日本消化器外科学会 専門医・指導医/日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医/日本肝臓学会 専門医・指導医/日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医/日本消化器病学会 専門医・指導医/日本乳癌学会 認定医/日本腹部救急医学会 腹部救急暫定教育医・腹部救急認定医/日本消化器外科学会 専門医・消化器がん外科治療認定医/日本Acute Care Surgery学会 認定外科医/日本血栓止血学会 血栓止血認定医 等

統括部長 救命救急センター長 **木戸川 秀生** (きどがわ ひでお)

卒年 平成元年

専門医等

日本外科学会 専門医・指導医/日本消化器外科学会 専門医・指導医/日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医/日本消化器外科学会 専門医・消化器がん外科治療認定医/日本救急医学会 専門医/日本消化器病学会 専門医/日本内視鏡外科学会 技術認定医(消化器・一般外科)/日本腹部救急医学会 認定医・暫定教育医/ICD制度協会 インフェクションコントロールドクター/日本腹部救急医学会 評議員/福岡救急医学会 評議員/九州外科学会 評議員/日本外科感染症学会 評議員/日本内視鏡外科学会 評議員 等

外科主任部長 **山吉 隆友** (やまよし たかとむ)

卒年 平成7年

専門医等

日本外科学会 専門医・指導医/日本消化器外科学会 専門医・指導医/日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医/日本消化器病学会 専門医/日本外傷学会 専門医/日本がん治療認定医機構 がん治療認定医/日本外科感染症学会 外科周術期感染管理認定医/日本腹部救急医学会 認定医/ICD制度協会 インフェクションコントロールドクター 等

外科部長 **上原 智仁**
(うえはら としひと)

卒年 平成14年

専門医等

日本外科学会 専門医/日本消化器外科学会 専門医/日本消化器病学会 専門医/日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医

外科部長 **山内 潤身**
(やまうち ますみ)

卒年 平成15年

専門医等

日本外科学会 専門医/日本消化器外科学会 専門医/日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医/日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医

外科部長 **長尾 祐一** (ながお ゆういち)

卒年 平成15年

専門医等

日本外科学会 専門医/日本消化器外科学会 専門医/日本消化器病学会 専門医/日本消化器内視鏡学会 専門医/日本がん治療学会 認定医/日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医

外科部長 **田嶋 健秀** (たじま たけひで)

卒年 平成21年

専門医等

日本外科学会 専門医

外科部長 **榊原 優香** (さかきばら ゆうか)

卒年 平成24年

専門医等

日本外科学会 専門医

外科

(小児外科)

主任部長 しんやま 新山 しん 新

専門医等

日本小児外科学会 専門医
日本外科学会 専門医

卒年

平成6年



診療科の紹介

当院は小児救急・小児総合医療センターとして、北九州市のみならず近隣の市町村を含めた北九州医療圏の小児医療を担っている施設です。そのため外傷や急性期疾患、虐待など、外科的処置の必要な子ども達が大量運ばれてきます。小児科医のみならず脳神経外科、形成外科、整形外科、泌尿器科と手を合わせて合同で診療に当たることが必要になります。その中で小児外科は、腹部や胸部の疾患に対応できるように心がけています。

取り扱う主な疾患

年間約110件前後の全身麻酔手術を行っています。小児（16歳未満）急性期疾患として最多は急性虫垂炎であり、50件程度です。2019年は若干少なく44件でしたが、全例腹腔鏡下、しかも単孔での手術で完遂しています。その次に多い疾患は外鼠径ヘルニアで、20件から30件程度手術を行っています。

その他には、化学療法を行うための中心静脈カテーテル挿入術、喉頭気管分離術、気管切開術、胆道拡張症手術、胃瘻造設術などを行っています。

当科の特徴

現在常勤の小児外科医は1人のため、他科の様に“小児外科”独立で診療に当たることは困難であり、小児科医と一緒に診断・診療を行い、成人外科医とグループになって手術を行っているのが現状です。

また小児外科は2019年12月北九州市立八幡病院が新病院に移転するに当たり、正式に標榜できるようになりました。さらに日本小児外科学会教育関連施設に認定されているため、大学へ手術応援を依頼することで高度先進医療手術を提供できる状況にあると考えています。小児外科を目指したいという若手医師の研鑽の場になれるよう、また研修医が小児外科に少しでも興味を持ってもらえる場になるようにする責務があると思います。

一方、当院が現在産科を休診しているためにNICUが併設されていません。そのためにどうしても新生児疾患に関しては、他の総合病院の小児外科に頼らざるを得ない状況が続いており、今後の課題として捉えていく必要があります。

小児外科は、今後も小児に携わる外科として他科と連携を保ちながら、また教育関連施設として教育にも務めながら安全な診療を心がけていきます。

診療実績

	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011
急性虫垂炎	44	70	65	69	64	65	56	49	52
鼠径ヘルニア	21	28	28	21	30	48	31	16	28
内視鏡（鎮静下）	34	57	44	31	25	7			
手術計	117	144	129	115	111	123	104	89	91

外科

(呼吸器外科)

いのうえ まさお
主任部長 井上 征雄

専門医等

日本外科学会 専門医
日本救急医学会 専門医
社会医学系専門医協会 専門医・指導医
肺がんCT検診認定機構 認定医
日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医 等

卒年

平成5年



診療科の紹介

呼吸器外科専攻認定医1名を中心に、消化器外科医や小児外科医と連携しながら、呼吸器外科症例の手術を行っています。

取り扱う主な疾患

重症外傷、胸部外傷
気胸、膿胸など急性期疾患
肺癌、縦隔腫瘍

当科の特徴

救命救急センター併設している関係で、自然気胸や急性膿胸など緊急性を有する疾患が多く、また、胸部外傷など胸腔ドレナージを伴う全身管理も行っています。また、新病院移転に伴い新設されたハイブリッド手術室を使用して、術中触知困難な末梢肺病変に対するナビゲーション手術も近年導入しております。

長崎大学や島根大学とも連携し、肺がんや縦隔腫瘍に対しても、完全鏡視下手術も積極的に行っています。



2階 待合



3階 OP8(ハイブリッド手術室)



3階 手術室ホール

脳神経外科

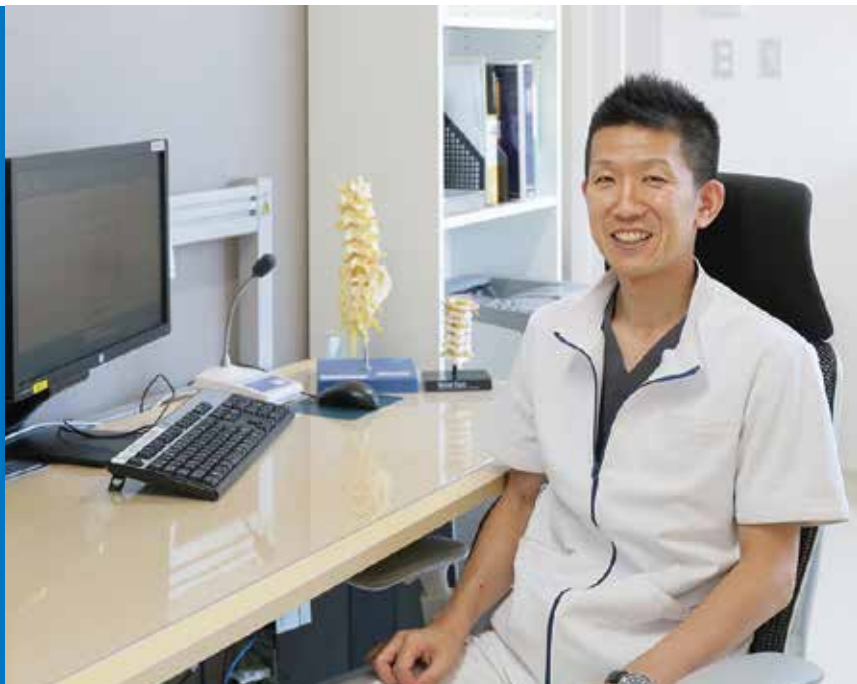
主任部長 きたがわ 北川 たけひろ 雄大

専門医等

日本脳神経外科学会 専門医・指導医
日本脳卒中学会 専門医・指導医
日本脊髄外科学会 認定医

卒年

平成18年



診療科の紹介

当院の脳神経外科は昭和53年という早期に開設し、救命救急センターの要のひとつとして機能してきました。現在は、脳神経外科救急を中心とした診療に臨んでおります。

脳神経外科の対象疾患は脳梗塞や脳出血、くも膜下出血等の脳卒中以外にも、脳腫瘍、頭部外傷、てんかんや水頭症、顔面痙攣や三叉神経痛等の機能的疾患、脊椎・脊髄疾患を含めて多岐にわたります。現在の医療は高度な専門性を要し、手術用顕微鏡を使った微細な手術だけではなく、血管造影装置とカテーテルを使用した血管内治療や、神経内視鏡による低侵襲な手術も行われます。さらに手術侵襲低減のため、神経刺激装置等のさまざまな手術支援設備を必要とします。当科では新病院への移転に合わせ様々な設備更新を行い、広く脳神経外科疾患に対応しておりますが、すべての疾患や病態に対応できるものではありません。当科では近隣の産業医科大学脳神経外科と緊密に連携することで、救急疾患だけではなく、ひろく脳神経外科疾患全般に対応いたします。

現在、常勤医師1名と外来を担当する非常勤医師3名で診療にあたっております。脳卒中や頭部外傷をはじめとした当科の対象疾患の多くは救急搬送されることが多く、当院の救命救急センターでの初療から24時間体制で当科の専門医が関わり、初期対応から診断、治療に至るまで、途切れないスムーズな診療を行える体制を構築しています。夜間等に当科医師不在の場合にも、携帯端末を利用した遠隔放射線診断を実施し、短時間で容体の悪化する疾患にも対応いたします。今後は、常勤医師の増員を予定しており、365日24時間体制の脳神経外科救急診療を展開したいと考えています。

取り扱う主な疾患

【脳卒中全般】

24時間体制での迅速なCTやMRI検査を行い、脳梗塞に対する急性期線溶療法や、脳出血・くも膜下出血の緊急手術に対応します。

また、パイプレンシステムを導入した最新の血管造影装置により夜間救急においても、極めて精細な血管情報を得ることができ、

迅速な診断・治療に貢献しています。新病院ではハイブリッド手術室を備え、血管造影検査や血管内治療だけではなく、手術室での開頭手術中のカテーテル検査、治療による支援が行えるようになり、より安全な手術が遂行できるようになります。

内頸動脈狭窄症や中大脳動脈狭窄症等の脳梗塞発症の危険性が高い疾患に対する頸動脈内膜剥離術や血管吻合術、くも膜下出血発症の危険性が高い脳動脈瘤の予防的な手術治療も実施しております。ご高齢の患者様にも対応すべく、それぞれの病態や全身状態、年齢や社会的要素も加味し、十分にご理解とご納得のもとでの手術をこころがけています。

【頭部外傷】

頭部CT検査等による迅速な診断のもと、即時の緊急開頭手術にも対応いたします。ときに一分一秒を争う切迫脳ヘルニアを来した急性硬膜下血腫にも、救急外来での緊急穿頭術を実施しております。頭蓋内圧モニター下での集中治療室における脳保護療法や超急性期からのリハビリテーションをチームで行い、機能回復にも最大限配慮しております。

【脊椎脊髄疾患】

脊椎ならびに脊髄の病気や外傷で、痛みやしびれ、筋力低下、歩行困難などの症状がある方の治療を行なっています。頸椎変性疾患（頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア、頸椎後縦靭帯骨化症など、腰椎変性疾患（腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など）の代表的な疾患だけでなく、脊髄硬膜動脈脈瘤や脊髄梗塞などの脊髄血管病変などの診断、治療、リハビリなどに積極的に取り組んでいます。

【正常圧水頭症】

正常圧水頭症は、慢性硬膜下血腫や脳腫瘍とならび、認知症の原因となる疾患です。歩行障害や尿失禁が合併することが多く、時に短期間で増悪することもあります。シャント手術による治療効果が期待できる疾患ですので、当科では正確な診断のもと、厳密に治療適応を判断しています。

整形外科 リハビリテーション科

めぬき くにしたか
主任部長 **目貫 邦隆**

専門医等

日本整形外科学会 専門医
日本手外科学会 専門医
日本骨粗鬆症学会 認定医
日本整形外科学会 認定リウマチ医
日本整形外科学会 認定スポーツ医
日本骨粗鬆症学会 評議員
日本骨形態計測学会 評議員

卒年

平成10年



診療科の紹介

当院は、救命救急センター、小児救急・小児総合医療センターを併設していることから、多くの重度外傷や小児の骨折治療を行ってきました。2019年度からは新体制となり、関節外科（岡部聡、渡嘉敷卓也）・手外科（目貫邦隆、花石源太郎）の診療を開始し、2020年度からは脊椎外科（齊藤勝義）が加わり、変性疾患においても専門性の高い医療を提供しております。またリハビリテーション科では、PT10名・OT5名・ST2名で、早期からのリハビリテーションを強化的に行っております。

取り扱う主な疾患

【関節外科】

関節外科を専門とする医師が、膝および股関節の変形性関節症に対する関節温存手術（寛骨臼回転骨切り術、高位脛骨骨切り術）や人工関節置換術を行っております。人工股関節置換術は、前外側アプローチによる最小侵襲手術（MIS）をバイオクリーンルームで行っています。軽度の変形性膝関節症の場合は、単顆人工関節置換術を行います。また、麻酔科医の協力のもと、術後の痛みをできるだけ減らすよう努めています。

【手外科】

日本手外科学会専門医が、橈骨遠位端骨折や手指・手根骨骨折などの手の外傷治療に加え、リウマチ手の機能再建、キーンベック病などの手根骨壊死、母指CM関節症などの変形性関節症、肘部管症候群や手根管症候群などの絞扼性末梢神経障害、腱鞘炎、デュビユイトラン拘縮、良性的骨軟部腫瘍など幅広い手術を行います。

【脊椎外科】

日本整形外科学会認定脊椎髄病医が、頸椎疾患や腰椎疾患に対して、投薬、生活指導、ブロック注射による保存治療を十分に行います。それでも症状が改善されない場合や症状が進行した場合、長期に渡り日常生活動作に支障が生じている場合は十分検討を行った上で手術治療を検討いたします。当科では腰椎疾患（腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症）に対しての手術治療（椎間板摘出術、拡大開窓術、椎弓切除術、後方固定術など）を行います。

診療実績

令和元年度は、延べ447名の手術を行い、右肩上がりに外来患者数・入院患者数、手術件数は増加しております。（手術症例一覧は2019.1.1～2019.12.31の一年間の集計）

分野	手術	件数(2019.1.1～12.31)	
関節	人工膝関節置換術	23	
	人工股関節置換術	10	
	人工骨頭挿入術(股)	20	
	寛骨臼移動術	1	
	骨切り術(高位脛骨骨切り術)	1	
	関節鏡下半月板切除術	3	
	関節鏡下半月板縫合術	1	
	関節鏡下肩腱板断裂手術	1	
	関節鏡下肩関節唇形成術	1	
	内反足手術	1	
	手外科	腱鞘切開術	20

	手根管開放術	16
	関節形成術	3
	関節固定術	5
	神経縫合術	1
	神経剥離術	2
	神経移行術	2
	腱縫合術	4
	腱移行術	1
	靭帯断裂形成手術	1
	ガングリオン摘出術	1
外傷	骨折観血的手術	183
	関節内骨折観血的手術	34
	骨折経皮的鋼線刺入固定術	15
	一時的創外固定骨折治療術	6
	関節鏡視下関節内骨折観血的手術	3
	関節脱臼観血的修復術	1
	アキレス腱断裂手術	8
	偽関節手術	2
	骨移植術	7
	骨揺爬術	1
	分層植皮術	2
	創傷処理	13
	骨内異物除去術	48
脊椎	胸椎脊椎固定術	2
	脊椎骨組織採取術	3
腫瘍	四肢軟部腫瘍摘出術	11
	皮膚皮下腫瘍摘出術	4
	骨腫瘍切除術	1

整形外科 リハビリテーション科 医師紹介

統括部長 **岡部 聡** (おかべ さとし)

卒年 昭和59年

専門医等

日本整形外科学会 専門医 / 日本リウマチ学会 専門医 / 日本整形外科学会 認定スポーツ医 / 日本職業・災害医学会 評議員

整形外科部長 **齊藤 勝義** (さいとう まさよし)

卒年 平成15年

専門医等

日本整形外科学会 専門医 / 日本整形外科学会 認定脊椎髄病医 / 日本整形外科学会 運動器リハビリテーション医

整形外科部長 **渡嘉敷 卓也** (とかしき たくや)

卒年 平成17年

専門医等

日本整形外科学会 専門医 / 日本整形外科学会 認定リウマチ医 / 日本整形外科学会 認定スポーツ医

整形外科部長 **花石 源太郎** (はなishi げんたろう)

卒年 平成18年

専門医等

日本整形外科学会 専門医 / 日本整形外科学会 運動器リハビリテーション医

形成外科

主任部長 津田 まさよし 雅由

専門医等

日本形成外科学会 専門医
日本頭蓋顎顔面外科学会
日本手外科学会
日本マイクロサージャリー学会
日本褥瘡学会
日本下肢救済・足病学会

卒年

平成13年



診療科の紹介

当院形成外科は、北九州市の形成外科としては最も早い昭和50年に開設され、顔面、四肢をはじめとした体表面の形態異常を整容的、機能的に改善する治療を行っております。

形成外科のスタッフは昨年と変化なく、3人で診療を行っております。

当科では形成外科全般にわたる診療を行っていますが、とりわけ口唇口蓋治療においては症例数が多く、県外からも患者さんが来られます。最新のDPC対象病院の口唇裂治療実績では全国11位の手術件数となっております。口唇口蓋裂、小耳症、手足の多指症、合指症等、2019年には204件の先天異常の手術を行いました。

また当院には救命救急センターがあるため、顔面骨折を含む顔面外傷や、切断指再接合等の手の外傷、熱傷等を数多く担当しています。

他施設から紹介をいただくことが多い疾患としては、各種皮膚腫瘍、褥瘡、難治性潰瘍などがあげられます。

トピックとしては、2020年よりVbeam II レーザーを導入しました。毛細血管奇形（単純性血管腫）、乳児血管腫（莓状血管腫）、毛細血管拡張症といった皮膚良性血管病変の治療が可能となりました。小児、成人を問わず治療ができますので、お問い合わせください。

取り扱う主な疾患

①表在性先天異常

口唇口蓋裂、副耳、埋没耳などの顔面、多指症、合指症などの四肢、臍ヘルニアなどの体幹部の表在性先天奇形に対する治療を行っています。

②皮膚、皮下、軟部腫瘍（良性、悪性）

皮膚腫瘍、皮下腫瘍、軟部腫瘍（良性、悪性）に対して手術やレーザーを用いた治療を行います。組織欠損のサイズや部位により、必要に応じて再建手術を行うことがあります。

③顔面、手の外傷

顔面の皮膚、軟部組織損傷、骨折に対する処置、手術を行っています。また手指の外傷（骨折、血管、神経、腱損傷）に対する外科的処置、再建手術を行っています。また外傷や熱傷によって生じた傷跡や瘢痕拘縮に対して手術等の治療を行うことで整容的、機能的に改善します。

④熱傷

小児を含めた熱傷患者に対して加療を行っています。軟膏や創傷

被覆材を用いた保存的加療や、必要に応じて手術治療（植皮術等）を行います。

⑤難治性潰瘍

糖尿病患者の足潰瘍や下肢の虚血による潰瘍、静脈の機能不全によっておこる、うっ滞性皮膚潰瘍に対して治療を行っています。また褥瘡に対しても、軟膏療法、持続陰圧吸引療法を含めた保存的加療、皮弁手術を含めた外科的治療を行っています。

⑥その他

足趾の爪が食い込む陥入爪、加齢により目が開きにくくなる眼瞼下垂の治療を行っています。また、Qスイッチルビーレーザーによる色素斑の治療、炭酸ガスレーザーや高周波ラジオ波メスを用いた小手術を行っています。腋窩多汗症や、まぶたがひきつる眼瞼痙攣、顔の片側がびくびくする顔面けいれんに対してボツリヌス毒素を用いた治療を行っています。匂いが問題となる腋臭症（わきが）に対しては手術を行います。

診療実績

* その他には無麻酔や分類不明を入れる

入院手術	全身麻酔	350 件
	腰麻・伝達麻酔	23 件
	局所麻酔・その他*	184 件
外来手術	全身麻酔	0 件
	腰麻・伝達麻酔	13 件
	局所麻酔・その他*	921 件

形成外科 スタッフ紹介

統括部長 田崎 幸博 (たさき ゆきひろ)

卒年 平成元年

専門医等

日本形成外科学会 専門医 / 日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科分野指導医 / 日本熱傷学会 専門医 / 日本口蓋裂学会 / 日本頭蓋顎顔面外科学会 / 日本手外科学会 / 日本マイクロサージャリー学会 / 日本褥瘡学会

形成外科部長 伊藤 綾美 (いとう あやみ)

卒年 平成22年

専門医等

日本形成外科学会 / 日本マイクロサージャリー学会 / 日本熱傷学会 / 日本褥瘡学会 / 日本手外科学会

麻酔科

主任部長 かないろ 金色 まさひろ 正広

専門医等

日本麻酔科学会 専門医・指導医
日本医療機器学会 認定MEDIC
厚生労働省 麻酔科標榜医
日本医師会 認定産業医

卒年

平成元年



診療科の紹介

麻酔科は、日本麻酔科学会認定麻酔指導医/日本専門医機構麻酔科専門医を含む3名の常勤医と産業医科大学麻酔学教室をはじめとする非常勤の先生方に協力をいただきながら、手術麻酔（周術期管理）と外来診療を行っています。

外来は、週2日（月・木 午前）にペインクリニック（痛みの外来）として診療しています。

取り扱う主な疾患

手術麻酔： 全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔（腰椎麻酔）、硬膜外麻酔、つまり（狭義の）局所麻酔症例以外のほぼ全例の麻酔を担当しています。

外来診療： 帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、頸肩腕痛、腰下肢痛、頭痛、癌性疼痛、複合性局所疼痛症候群などの痛みの治療に加え、末梢性顔面神経麻痺、突発性難聴、四肢の血行障害なども関係各科と協力し治療しています。

当科の特徴

当院は、小児（乳幼児）から高齢者まで救急医療に積極的に取り組んでいます。そのため、緊急手術も含め24時間365日あらゆる症例に対して「より安全に。より快適に。」をモットーとし、手術に関わる様々なスタッフと協力して周術期管理に取り組んでいます。

早期から全身麻酔に超音波ガイド下神経ブロックの併用を取り入れたり、ラリングルマスクやi-gelなどの声門上気道確保器具も積極的に使用するなど、可能な限りの患者安全を担保したうえに、可能な限りの快適性を追求し、日々研鑽努力しています。すべての患者の皆さまに安心して手術をお受けいただくことが私たちの目標です。

また、麻酔業務以外にも各科と協力して疼痛管理や疾患治療、救急対応に関わっています。新病院となりクリーンルームやハイブリッド手術室も新設され、施設も医療機器も充実しています。高度

な手術に対しても最新の医療機器を駆使し、より良い周術期管理をめざして患者の皆さま、そして当院を紹介いただいた先生方の期待に添えるよう努力しております。

診療実績

手術室における2019年の麻酔科管理麻酔件数は1,157、そのうち全身麻酔症例が1,120でした。重症患者に対するMAC（Monitored Anesthesia Care）や穿刺困難症例への薬剤髄腔内投与、脳死下臓器提供患者の呼吸循環管理など1,343の症例を担当させていただきました。

麻酔科 スタッフ紹介

麻酔科部長 齋藤 将隆（さいとう まさたか）

卒年 平成6年

専門医等

日本麻酔科学会 専門医・指導医/日本集中治療医学会 集中治療専門医/厚生労働省 麻酔科標榜医/日本医師会 認定産業医

麻酔科部長 齋藤 美保（さいとう みほ）

卒年 平成8年

専門医等

日本麻酔科学会 認定医/厚生労働省 麻酔科標榜医/日本医師会 認定産業医

耳鼻咽喉科

主任部長 あそう 麻生 ひろあき 裕明

専門医等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医

卒年

昭和59年



診療科の紹介

当科は外来診療と、手術及び急性疾患の治療を中心に入院加療を行っています。中耳炎、慢性副鼻腔炎等の一般的耳鼻咽喉科疾患の治療から、幼児難聴の診断、めまいの診断治療、頭頸部腫瘍（疑）の検査と診断など、幅広く対処します。

午前中は常勤医師1名体制で一般外来診療を行っています。午後には手術及び予約診で前庭機能検査（めまい検査）ファイバー等の検査、外来手術（ポリボトミー、鼓膜チュービング、生検等）、入院患者さんの診察等を行っています。咽喉頭や頸部等の急性炎症やめまい、突発性難聴、顔面神経麻痺等を入院の上、精査治療しています。また、声帯ポリープ、副鼻腔炎、扁桃炎等幅広く手術を行っています。

取り扱う主な疾患

外来：耳鼻咽喉科一般疾患（中耳炎、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、扁桃炎、咽頭炎など）

入院：入院管理が必要な耳鼻科疾患（急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、突発性難聴、内耳性めまい、顔面神経麻痺、声帯ポリープ）など。他に耳鼻科手術に付随するもの。

当科の特徴

小児科領域に強い当院の特性を生かし、耳鼻科症状を有する小児については、小児科に加え耳鼻科でも診断、検査、治療、手術を行います。新生児スクリーニング検査で、聴力に問題があることが疑われる場合、ABR検査を含めた聴覚精密検査を行い、疑わしい場合は、早期に北九州市立総合療育センターなどの療育機関と連携し、早期の補聴器装用による聴覚の問題解決または軽減を図っています。

手術については、小児の反復性扁桃炎、睡眠時無呼吸症候群に対し、積極的に手術を行っております。また、当院形成外科で口唇口蓋裂の手術を行う際、合併する耳管機能不全、さらには慢性滲出性中耳炎に対し、乳児期の鼓膜チューブ挿入手術を行っています。言語発達の遅れが疑われる幼小児に対し、鼻咽腔ファイバーによる鼻咽腔閉鎖能の検査を行い、当院形成外科および療育センターとの連携で、適切な治療方針を決定しています。

眼科

主任部長 いたや 板家 よしこ 佳子

専門医等

日本眼科学会 専門医
日本網膜硝子体学会
日本糖尿病眼学会
日本眼科手術学会
日本糖尿病学会

卒年

昭和55年



診療科の紹介

2019年12月に新病院の移転があり、新しい環境で診療ができるようになりました。眼科医一人、視能訓練士一人体制であり、患者さんには、ご迷惑をおかけすることもあります。一人ひとりの患者さんを大事に接することを心がけています。

取り扱う主な疾患

白内障、緑内障、糖尿病網膜症、その他の眼底疾患
他科との関連では、外傷なかでも眼窩底骨折による眼球運動障害や眼底疾患 スteroid治療中の子どもさんなど

当科の特徴

手術は原則火曜日、水曜日の午後
白内障手術は2泊3日、あるいは3泊4日の入院
硝子体手術は7泊8日の入院

診療実績

白内障手術	123件	硝子体手術	11件
増殖糖尿病網膜症	4件	糖尿病黄斑浮腫	3件
網膜前膜	2件	前部硝子体切除	2件



OCT(光干渉断層計)



白内障術前



白内障術後(眼内レンズ挿入眼)

精神科

主任部長 しらいし 白石 やすこ 康子

専門医等

日本精神神経学会 専門医・指導医
日本医師会 認定産業医

卒年

平成8年



診療科の紹介

八幡病院精神科では広く精神科一般の病気を診ています。妄想や幻覚で苦しんでいる人や気持ちが落ち込んで苦しんでいる人から、職場の悩みを抱えて体調不良に悩む人、夜眠れなくて困っている人等、症状やその程度は様々です。一口に精神科の病気といってもひとりひとり症状も治療法も違ってきますから、その人に一番良い治療法を目指しています。

なかでも認知症に関しては、令和2年6月もの忘れ外来を始めました。当科での心理検査と放射線科の画像検査をもとに検査をし、早期に認知症の診断・治療ができるよう努めています。下記に認知症の画像診断を紹介しています。また外来患者さんだけでなく、当病院に入院中の他科患者さんの心のケアにもあたっています。なお当院には精神科の病床はありませんので、入院が必要な場合は他の精神科病院を紹介しています。

以上午前中の精神科外来、予約制の物忘れ外来、午後からの他科入院患者さんの精神面のケア（コンサルテーション・リエゾン精神医学）を主な業務としています。



取り扱う主な疾患

【診療時間】

一般外来

月曜日～金曜日 受付時間：午前8時から11時

新患・再来とも予約制ではありません。

物忘れ外来

水曜日 午後2時から4時（ただし第3水曜日は除く）

完全予約制です。

認知症の画像診断

【VSRAD検査】

放射線科で行うMRI検査です。早期アルツハイマー病では、脳萎縮が海馬で著明であるため、脳全体と海馬の萎縮の程度を一定値（ボクセル値）へ変換した後、健常人のデータベースを対照として解析することで、海馬領域が特に障害されているかを判定します。これまでの核医学検査を用いた方法と違いMRI検査にて比較的手軽にできるようになりました。早期アルツハイマー型認知症の診断に威力を発揮しています。その結果、診断後早期治療も可能になりました。

【ダットスキャン（Dat-scan）検査】

放射線科で行う核医学検査（123Iイオフルパン）です。これまでの交感神経機能検査と違い、直接脳の交感神経機能の情報を得られます。この検査の対象となる病気は認知症疾患です。パーキンソン症候群、レビー小体型認知症における黒質線条体ドパミン神経の脱落の有無を調べることができます。それによってアルツハイマー病等の別の認知症との鑑別が可能になります。

泌尿器科

主任部長 **まつもと 松本** **ひろおみ 博臣**

専門医等

日本泌尿器科学会 専門医・指導医

卒年

平成13年



診療科の紹介

泌尿器科悪性腫瘍（腎癌、前立腺癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣腫瘍など）、良性疾患（尿路感染症、尿管結石症、前立腺肥大症、過活動膀胱など）に対する診療を行っています。とくに悪性腫瘍に対する手術治療・全身癌化学療法では、新しい知見を取り入れ、最新の治療が行えるよう心がけております。

また、当院の特色である小児診療も積極的に行っており、小児泌尿器科領域での外科手術（停留精巣、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、包茎など）を施行しています。

泌尿器科救急疾患（尿路外傷、尿管結石嵌頓、腎後性腎不全、尿閉、膀胱タンポナーデ、精索捻転など）にも対応します。

2019年4月より、常勤の泌尿器科専門医が1名増員となり、2名体制となりました。今まで以上に柔軟に対応できると考えます。種々の疾患に対し、当院で診断・治療・フォローアップまで完結できるように努め、地域住民の方々のニーズに応えられるような医療を展開してまいります。

取り扱う主な疾患

・腎癌

開腹手術のみならず、鏡視下手術も積極的に行います。また、進行腎癌に対する新規薬剤（分子標的剤・免疫チェックポイント阻害剤）治療も可能です。

・前立腺癌

手術治療（前立腺全摘術）は主に開腹手術を施行します。薬物治療に関しては、標準的な内分泌療法はもちろん、去勢抵抗性前立腺癌に対する抗癌剤治療・新規薬剤治療も行います。放射線治療に関しましては、産業医科大学病院と連携をとり、外照射もしくは小線源療法の適応例は速やかに紹介し治療を依頼しています。

また、前立腺生検に関しましては、2泊3日の入院で腰椎麻酔下で行い、「痛くない生検」をモットーにしております。

また、2017年より、去勢抵抗性前立腺癌骨転移に対する新しい放射線医薬品治療(223Ra, ゴーフィゴ)を開始し、福岡県でも有数の症例数を経験しています。

・膀胱癌

主に経尿道的手術(TUR-Bt)を中心に行っています。進行膀胱癌に対しては膀胱全摘術+尿路変向術を積極的に施行しています。転移を有する進行癌に対しては、全身癌化学療法を入院にて行なっています。

・腎盂尿管癌

手術適応例に関しましては、鏡視下手術による全摘術を行います。進行癌に対しては、全身癌化学療法を入院にて施行しています。

・尿路結石症

内視鏡手術の適応例に関しましては、経尿道的碎石術(TUL)を行います。また、最新の結石破碎装置を導入し、2019年1月から体外衝撃波

破碎術(ESWL)を当院で施行できるようになりました。2020年5月現在で70例ほど施行し、高い治療効果を得られています。外来治療が可能であり、患者様の満足度も高い治療です。

・前立腺肥大症

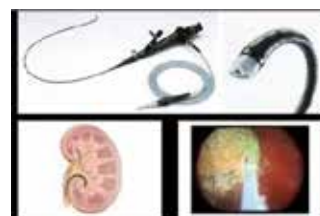
日本で使用可能な薬剤はすべて取りそろえており、適切に選択しながら治療を行います。薬物治療で不十分な症例では経尿道的手術(TUR-P)を施行します。

・小児泌尿器疾患

当院小児科と連携し、先天疾患に対する手術治療を行います。主に、停留精巣に対する精巣固定術、先天性水腎症に対する腎盂形成術、膀胱尿管逆流症に対する逆流防止術などです。時に小児泌尿器科救急疾患として認められる、精索捻転症に対する緊急手術も行います。



Dornier Delta III



軟性尿管鏡を用いたTUL
(経尿道的尿管結石砕石術)

診療実績

2019年 泌尿器科診療実績

外来患者数	4326人
入院患者数	169人
	(平均入院患者数 5.6人/日、平均在院日数 13.8日)
手術件数	133件
ESWL件数	48例

泌尿器科 スタッフ紹介

泌尿器科部長 **武内 照生** (たけうち あきお)

卒年 平成19年

専門医等

日本泌尿器科学会 専門医

皮膚科

主任部長 こが 古賀 もんじ 文二

専門医等

日本皮膚科学会 専門医

卒年

平成12年



診療科の紹介

2019年4月より麻生が着任し、引き続き2名体制で診療を行っております。月曜から金曜までの週5日、午前8時30分から午前11時までの受付時間で外来を行っております。主に月、水、金は古賀が、火、木は麻生が担当しますが、御希望があれば柔軟に対応させていただきますので遠慮なくご相談ください。

取り扱う主な疾患

皮膚疾患全般を取り扱っております。水虫、イボ、ニキビからより専門的な炎症性皮膚疾患まで皮膚に関するトラブルは、お気軽にご相談ください。

当科の特徴

皮膚科において兎にも角にも大切なのは、「視診（ししん：皮膚を観察し性状を把握する診察方法です。）」をしっかりと行うことだと考えております。当科では、基本となる問診および視診を十分に行い、必要に応じて皮膚生検（ひふせいけん：病変の一部を採取し病理検査を行う）や血液検査、画像検査などの各種検査を提案し、なるべく正確な診断が得られるように努力しております。また自科で診断治療が困難と判断される場合は、院内（時に院外）の他科の医師と緊密に連携し、質の高い医療を行なっていくことを心がけております。また難治性アトピー性皮膚炎に対して、標準治療（ステロイド外用、保湿剤外用、抗アレルギー剤内服）に加えて生物学的製剤（デュピクセント®）の投与も行っております。お気軽に担当医にご相談ください。

診療実績

セラビーム（紫外線照射療法）・・・およそ20症例/月
皮膚生検・・・およそ15症例/月

皮膚科 スタッフ紹介

皮膚科副部長 麻生 麻里子（あそう まりこ）

卒年 平成27年

婦人科

いのうえ つねお
主任部長 井上 統夫

専門医等

日本産科婦人科学会 専門医
日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医
日本超音波医学会
日本生殖医学会
GID（性同一性障害）学会
母体保護法指定医
日本産科婦人科学会女性のヘルスケアアドバイザー
養成プログラム終了認定医
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了認定医
新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）修了認定医 等

卒年

平成7年



診療科の紹介

婦人科は常勤医師2名体制で診療にあたっています。専門性を生かした外来診療には特に力を入れております。幼児期、思春期から性成熟期を経て、更年期、老年期までのすべての女性の一生のヘルスケアを行っています。

取り扱う主な疾患

子宮がん検診
性感染症の診断と治療、性虐待、性被害
子宮頸部異形成の診断および円錐切除術（レーザー蒸散を含む）
良性卵巣腫瘍の手術（腹腔鏡下または開腹付属器摘出術など）
骨盤臓器脱の非観血的治療（ペッサリーリングによる治療）
子宮内膜症の診断と薬物療法
月経周期の異常、排卵障害の原因精査とホルモン療法
月経困難症（月経痛）の治療
不妊症、不育症の精査、治療
流産手術、人工妊娠中絶術
性同一性障害のホルモン療法
妊婦健診（当院での分娩は取り扱っておりません）

当科の特徴

不育症の診断と治療
不育症のリスク因子を系統的に検索し、見つかったリスク因子に合わせた最適な治療を行います。

不妊症の診断と治療
不妊症に対する原因検査ならびに一般不妊治療を行っています。子宮卵管造影検査、精液検査や原因不明不妊や臨床的子宮内膜症が疑われる方に対する不妊症検査としての腹腔鏡検査も行うことができます。生殖補助医療（人工授精、体外受精・胚移植）は行っておりません。

婦人科内分泌および女性のヘルスケア

原発性及び続発性無月経、月経不順や過多月経、月経困難症、月経前症候群の診断と治療、ならびに更年期、老年期女性のヘルスケアを行います。月経困難症や過多月経に対しては最適なホルモン療法やホルモン含有子宮内器具による治療を積極的に行っています。また早発卵巣不全の治療についても十分な臨床経験があります。

性同一性障害（GID）に対するホルモン療法

性同一性障害と診断された方を対象に、診療ガイドラインに沿ってホルモン療法を行います。当科ではMale to Female に対する女性ホルモン投与、およびFemale to Male に対する男性ホルモン投与のいずれも行うことができます。

女性アスリートに対するヘルスケア

女性アスリートのなかには競技中の月経や貧血によるパフォーマンス低下や倦怠感、疲労骨折等のコンディション不良など女性特有の症状に悩んでいる方も少なくありません。

体重減少による無月経は将来の妊娠、出産にも悪影響を与える可能性があります改善させないといけない症状のひとつです。ドーピングなどにもかからない安全な治療を行います。

診療実績

子宮頸部円錐切除術、流産手術、卵巣腫瘍手術、人工妊娠中絶術等を行っています。

婦人科 スタッフ紹介

婦人科部長 今福 雅子（いまふく まさこ）

卒年 平成15年

専門医等

日本産科婦人科学会 専門医／日本がん治療学会 認定医／日本婦人科腫瘍学会／日本女性医学学会／日本産科婦人科遺伝診療学会／母体保護法指定医／女性アスリート健康支援委員会講習会受講医師

放射線科

主任部長 **神崎 修一**

専門医等

日本医学放射線学会 放射線診断専門医・研修指導者
日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR専門医・指導医
日本超音波医学会 専門医・指導医
肺がんCT検診認定機構 認定医師
日本消化器集団検診学会 認定医
日本超音波医学会 九州地方会運営委員

卒年

昭和56年



診療科の紹介

当科は現在常勤医3名で画像診断とIVR（インターベンショナルラジオロジー）を中心に診療を行っています。

画像診断は、消化管X線検査、心臓以外の超音波検査、CT検査、RI検査、MRI検査、血管造影検査を行っています。

消化管X線検査では、ジトロスコープを使い、体動困難な高齢者にも容易に検査可能です。超音波検査では、カラードブラを使い血流の描出が可能です。CT検査では、高速ヘリカルスキャンにより鮮明で詳細な画像が得られます。

またワークステーションにより冠動脈や腎動脈の狭窄、脳動脈瘤や大動脈瘤、骨折等の3D画像を容易に得ることができます。RI検査では、SPECT画像を、MRI検査では、MR angi画像を、血管造影では、回転DSAや歳差画像により立体的な動画像を得ることができます。

いずれの検査も予約制で、他院からの依頼も受けています。

単純X線撮影、消化管X線検査、CT検査、MRI検査、心臓以外の超音波検査の予約は、内線1130で受け付けています。他院からの検査依頼に対しては、フィルムと報告書を作製し、できるだけ早く郵送しています。（CT検査依頼に対しては、MDCTの全画像をパソコンで見られるようにCDに保存し、フィルム、報告書とともに郵送しています）

IVRは血管系では一般的なTAEやPTAから比較的稀なB-RTO、リザーバー留置術まで、非血管系では、PTGBD、PTCDや膿瘍ドレナージ、生検、胆道ステント挿入等を施行しています。

取り扱う主な疾患

【脳血栓溶解療法】

脳梗塞の原因である脳血管内の血栓（塞栓）を、発症早期（できれば3時間以内）に溶解し、脳梗塞を治療します。具体的には、大腿動脈より非常に細い管（カテーテル）を、閉塞している脳血管まで進め、高濃度の血栓溶解剤を注入して血栓を溶かします。発症から溶解までの時間が短ければ短い程血栓は溶けやすく、なかには意識不明の患者さんが手術の途中で意識を取り戻し、重篤な後遺症や死に至らずに済むこともあります。

【TIPS（経皮的肝内門脈肝静脈短絡術）・PTO（経皮経肝門脈塞栓術）・B-RTO（バルーン閉塞 下逆行性経静脈的塞栓術）】

いずれも肝硬変症で生じる胃静脈瘤の治療法です。TIPSは、右内頸静脈から管を入れて右肝静脈から右門脈にかけて金属針で穿刺しにし、バルーン（風船付き）カテーテルでその経路を拡張後、ステント（金属で編んだ導管）を留置して肝臓内に人

工的に通路（門脈肝静脈短絡路）を作り、肝硬変で高くなった門脈圧を下げる方法です。これにより胃静脈瘤は縮小し、破裂の危険を回避することができます。また門脈圧亢進で生じる難治性腹水の治療法としても有用です。PTOは、超音波ガイド下に肝内門脈を穿刺し、カテーテルを門脈内に入れて胃静脈瘤の流入路を金属コイル等の塞栓物質で詰める方法です。B-RTOは、胃静脈瘤と左腎静脈との間に交通があり、胃静脈血が左腎静脈に流出する場合に、その流出路にバルーンカテーテルを挿入して血流を止め、血流とは逆方向に液状硬化剤を胃静脈瘤まで注入し固める方法です。



TIPS（経皮的肝内門脈肝静脈短絡術）
PTO（経皮経肝門脈塞栓術）

放射線科 スタッフ紹介

放射線科部長 **今福 義博**（いまふく よしひろ）

卒年 平成10年

専門医等

日本医学放射線学会 放射線診断専門医・研修指導者／日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医

救急科

主任部長 いのうえ 井上 まさお 征雄

専門医

日本外科学会 専門医・指導医
日本救急医学会 専門医
社会医学系専門医協会 専門医・指導医
肺がんCT検診認定機構 認定医
日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医 等

卒年

平成5年



診療科の紹介

救急科医師を中心に外科系、内科系の救命センター当番医師の協力を仰ぎながら、救急診療にあたっています。救急科専門医は5名在籍しており、普段の救急診療のみならず、救急救命士の指導、地域メディカルコントロール体制への関与、DMATなど災害医療に従事しています。

取り扱う主な疾患

重症外傷、多発外傷
院外心肺停止
急性腹症

当科の特徴

外科を中心に、整形外科、脳神経外科、形成外科とも連携しながら、北九州市西部地域のさまざまな外傷疾患に対応しています。

免震構造の屋上ヘリポートを有し、北九州地域で発生した広域搬送事案において、消防防災ヘリやドクターヘリの受入を積極的に行っています。

北九州地域の災害基幹病院として、DMAT（災害医療派遣チーム）を複数有して、日頃から活動しています。



救急初療室



救急処置室

歯科

主任部長 おかうえ あきまさ
岡上 明正

卒年

昭和58年



診療科の紹介

歯科は完全予約診療制です。歯科医師1名・歯科衛生士1名の体制で一日10名程度診療しています。予約制なので当日は診療開始まで長時間お待たせする事はありません。病院歯科なので、患者層は70～80才台の方が多くまたほとんど有病者です。

取り扱う主な疾患

診療内容は一般の個人病院と同じです。口腔外科・矯正歯科・歯科治療の経験のない小児は対象外です。インプラント・顎関節症等の治療は九州歯科大学附属病院等を紹介しています。

当科の特徴

局所麻酔を頻繁に使用しますが、粘膜に針先を刺入する際あらかじめ表面麻酔を必ず塗布しますし、手技的痛くないように工夫を凝らしています。患者さんからも「痛くなかった。」の声を良く耳にします。

歯の治療時に金属冠やBridgeを除去する事が多いのですが、はずしてしまうと噛む場所が少なくなりますし外見的にも問題が生じたりするので、当科では早急に仮歯を作製し歯無しでお帰り頂く事ないように心がけています。

入れ歯の修理も迅速に行います。簡単なものはその場で修理もしくは半日あずかって修理します。

歯の基礎工事とでも言うべき根管治療には特に力をいれています。保険の点数が低いので採算性は非常に悪いのですが、この治療を怠ると数年後の再治療を余儀なくされます。X線パノラマ撮影をすると完璧な根管治療を目にすることが極めて少ないのが現状です。



臨床検査科

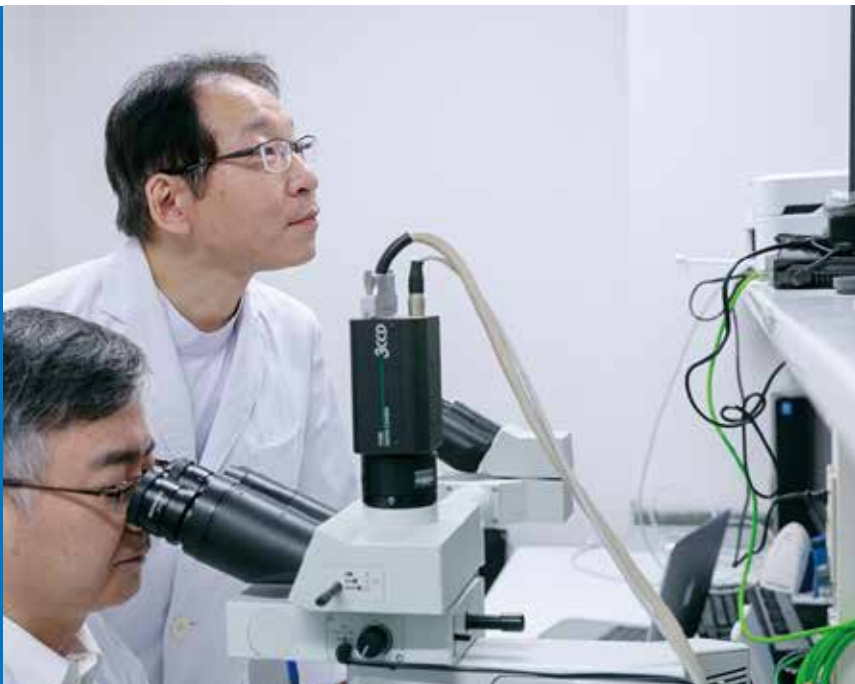
主任部長 木村 聡

専門医

日本内科学会 総合内科専門医
日本循環器学会 専門医
日本臨床検査医学会 臨床検査管理医

卒年

平成7年



診療科の紹介

臨床検査科は2018年秋より院内開設し、2019年より正式な標準科としてスタートいたしました。現在常勤医師1名、非常勤病理医師2名で運営し、診療内容は臨床検査に関わる各種診断、検査、管理、コンサルテーション業務を主体に活動を行っています。病理診断に関する業務は産業医科大学第2病理学講座のご協力、生理機能検査は関連各診療科医師にご協力いただいています。

また各種の検査結果に基づき院内の感染制御や医療安全業務に協力しています。

取り扱う主な疾患

- ・一般、生化学、免疫・輸血、血液に関わる各種検体の検査、診断及び管理等
- ・細菌、真菌及びウイルスに関わる同定、遺伝子解析検査等
- ・病理診断及び検査（生検、手術材料に関する病理診断及び病理解剖等）
- ・生理機能検査（心電図、超音波検査、肺機能検査、脳波検査等）
- ・上記検査に関する診断、コンサルテーション

当科の特徴

2018年に臨床検査に関わる医療法等の大きな改正が行われました。その改正で各種検査に精度管理者を配置し、正確な検査結果を保証するとともに検査機器の日々の的確な管理が求められるようになりました。現在の医療においては、数年前と比べても疾患の細分化は進んでおり、治療はその細分化された診断に基づき行われます。検査機器もそれに併せて日々進歩し、正しい検査結果無くして正確な診断や治療は困難な時代を迎えつつあります。さらに近年は悪性腫瘍を中心に遺伝子診断に基づく治療法の選択が主流となりつつあります。医療法の改正では遺伝子を含む分子生物学の知識を有する管理者の配置も求められるようになりました。

このように日々高度化する医療の現場では、検査実務のみならず疾患に関する知識を有した医師の配置が不可欠となってきています。当院では日本臨床検査医学会及び日本病理学会に所属する常勤、非常勤医師により適切に最新の知見を取り入れつつ臨床検査技師と協力し、検査診断業務を行っています。

診療実績

検査項目	検査実績(検査項目数)
一般検査	169,372
生化学検査(含、免疫・輸血)	495,210
血液検査	199,263
生理検査	11,587
細菌検査	22,358
時間外緊急検査	246,228
病理検査(生検・術材)	1,428(件数)
病理検査(細胞診)	1,033(件数)
病理解剖	8(件数)

初期研修医



臨床研修担当副院長・
プログラム責任者
岡本 好司
(おかもと こうじ)

ごあいさつ

北九州市立八幡病院の研修医プログラムの特徴は、救急研修にあります。本院は北九州市および近郊120万人を対象とした3次救急医療体制の中核施設で、多発外傷、心大血管疾患、脳神経疾患、呼吸器・消化器疾患、急性中毒などの重症患者を24時間365日受け入れています。

臨床研修では、経験豊かな26臨床科のスタッフとともにこれらの救急医療に携わることで臨床の実地修練を積んでゆきます。研修システムは、3ヶ月から6ヶ月単位のローテートを軸に組み立てられます。その時々々の研修医の先生の希望変更が反映できるように、研修の途中でも、半年毎に、研修科の希望変更ができるようにしています。

救急科は、診療の入り口です。迅速な診断治療を行った後に、さらに緊急心臓カテーテルや緊急手術になる患者さんもたくさんいます。また、回復期に向けてのリハビリや退院に向けての予防医学など、現在の医療は、多くの医療行為を必要とされます。当院は、豊富な医師とコメディカル、設備により、ほとんどすべての医療処置を当院の中で完結することができます。研修医プログラムでは、これらの「できるスタッフ」に囲まれた専門的な治療もたくさん経験することになります。さらに、純粋な医学的な問題以外に、高齢社会における療養問題などの社会的な問題も目の当たりにすることになります。また、院内での実践的な講義や勉強会も盛んに行われています。

医師は、「医学的な知識を持った人」ではなく、「医療行為を通して人を助ける人」です。北九州市立八幡病院は、「病気をを持った患者さんへ対峙できる医師を目指した研修プログラム」を用意して皆さんを待っています。

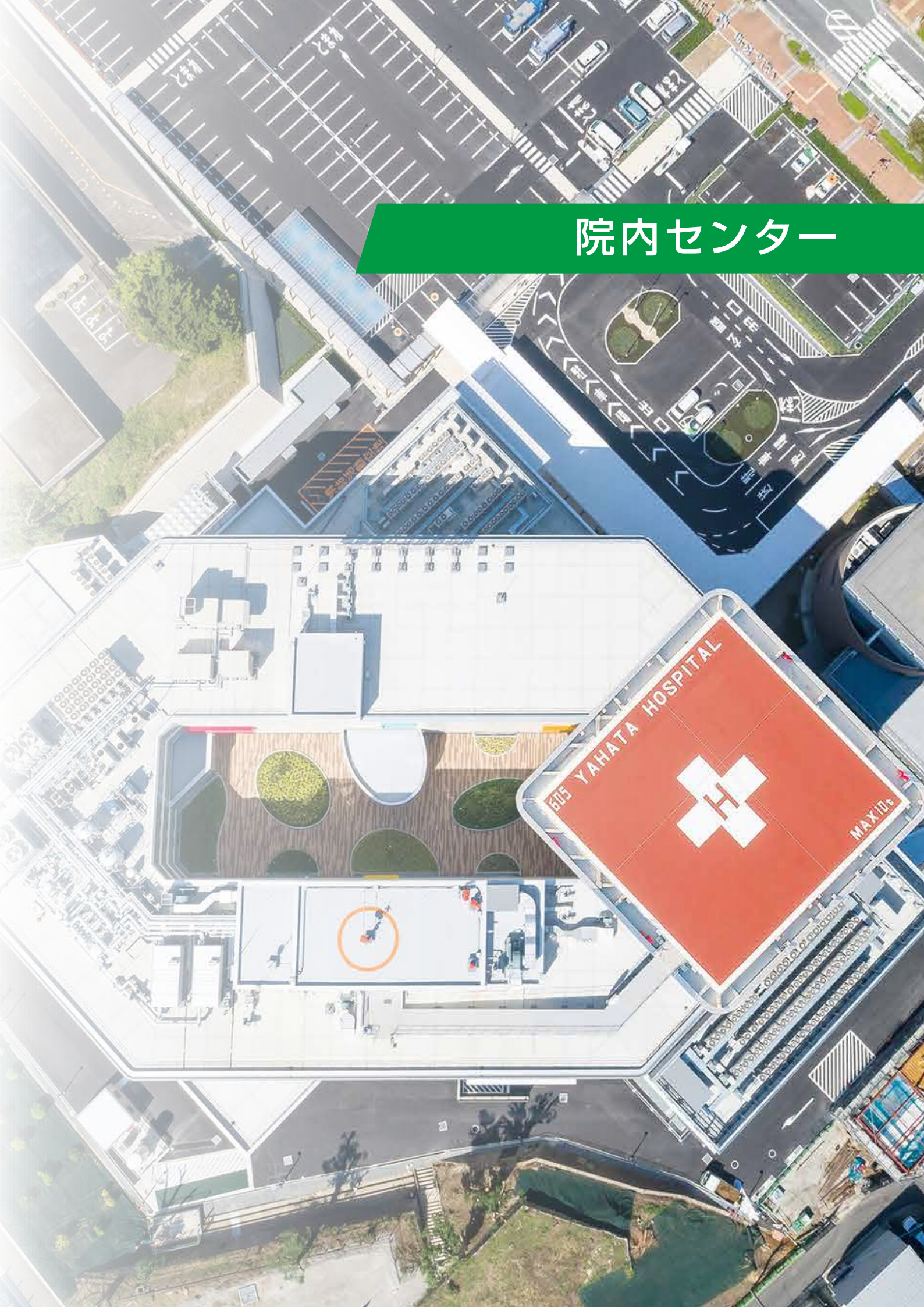
理念と臨床研修プログラムの特色

「私たちは、24時間、質の高い医療を提供し、皆様に、安心、信頼、満足していただける病院を目指します」を基本理念とし、北九州市と近郊地域の基幹病院として一般診療を行うと共に、救命救急センター、小児救急センターを併設して、1次から3次までの成人、小児救急医療を担当している。また、教育面においても、27学会の認定医（専門医）教育病院、医学部臨床実習病院、看護科臨床実習病院、救急救命士実地研修病院として、医師、医学生、看護師、救命救急士の指導、育成にも力を注いでいる。

以上のことから、本院における臨床研修プログラムは、救急や総合診療において、豊富な症例と経験豊かな指導医を備えるなど充実した内容となっている。



院内センター



救命救急センター

きどがわ ひでお
センター長 木戸川 秀生

専門医等

日本外科学会 専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医・消化器がん外科治療認定医
日本救急医学会 専門医
日本消化器病学会 専門医
日本内視鏡外科学会 技術認定医（消化器・一般外科）
日本腹部救急医学会 認定医・暫定教育医
ICD制度協会 インフュージョンコントロールドクター
日本腹部救急医学会 評議員
福岡救急医学会 評議員
九州外科学会 評議員
日本外科感染症学会 評議員
日本内視鏡外科学会 評議員

卒年

平成元年



センターの紹介

当院の救命救急センターは1978年10月に九州で2番目の救命救急センターとして開設されて以来、北九州地域の三次救急医療体制の中核施設としての役割を果たしてきました。2018年12月に新病院へ移転し新たな第一歩を踏み出しているところです。

新病院では、1、救命救急医療、2、小児救急医療、3、災害支援医療を政策医療に掲げています。北九州市西部地域の2次、3次救急を担う救命救急センターであり、免震の大型屋上ヘリポートはヘリ搬送患者の受け入れ拠点として運用されています。また、病院敷地内には常設型救急ワークステーションができ、北九州地域の救急業務メディカルコントロール体制における中核施設として活動を行なっています。

取り扱う主な疾患

急病者は救急科医師と各分野の専門医師が協働して初療にあたっています。入院が必要な場合は担当診療科が引き継ぐ体制です。重症者は、小児、成人とも救命救急センターで対応しますが、小児軽症者は小児救急・小児総合医療センターが担当します。24時間の診療体制で、平日勤務時間帯はおもに救急科医師が担当しますが、時間外・休日は、内科系、外科系、小児科医師あるいは応援医師が担当します。365日・24時間入退院が可能な病棟として、救急病棟、ICU/PICU、小児救急病棟合わせて約100床の救急病床を準備しています。

センター連絡会議は毎週開催され、救急医療体制に関する事項を広く協議する会議です。構成員は、院長、副院長、統括部長、各センター長（救命救急センター、小児救急・小児総合医療センター、災害医療研修センター、消化器・肝臓病センター、外傷・形態修復・治療センター、心不全センター）、関係部門の責任者（救急関連の診療科、看護部、医療支援部、事務局）及び消防機関（救急ワークステーション）が参加し、週間および月間救急患者動向（救急入院患者数、消防救急車受入件数・応需率、CPA事案、ドクターカー出動事案など）を分析・報告しています。

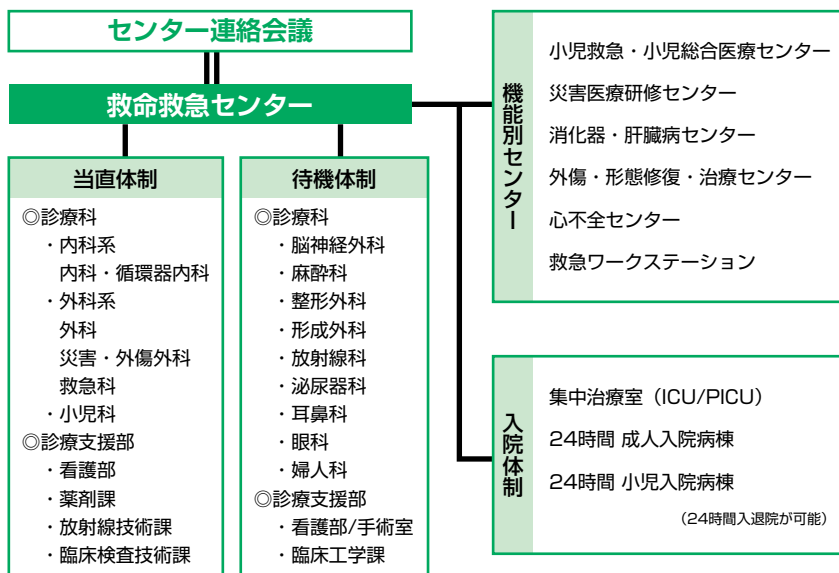


図1：救命救急センターと他の院内センター、関係部署との連携図

当科の特徴

若手医師の研修体制

初期研修医の先生は、救急科研修を通じて、平日時間帯は救命救急センター担当医の指導助言のもと、センターに救急搬送された内科、外科系患者の診療に携わっています。救急科領域専門研修プログラム（八幡病院エキスパート研修プログラム）に基づき、専攻医が救急領域研修を行っています。研修医、専攻医においては、初期対応患者が緊急手術となるような場合は、手術にも参加出来ます。また、専攻医は、病院前救護とメディカルコントロール体制を学ぶため、当院敷地内に設置されている救急ワークステーションにおいて消防救急車の医師同乗指導に参加します。

多数傷病者発生事案においては、当院DMAT隊員と共に実際に災害出動します。また、災害訓練への参加を通して日頃から災害訓練の重要性を学び、消防防災ヘリコプター講習会にも参加します。

救急救命士の実習体制

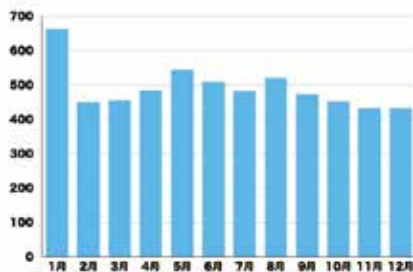
当救命救急センターは、北九州地域の救急救命士に対する再研修、就業前実習、薬剤認定救命士実習、救命救急九州研修所の病院実習など、年間90名以上の実習生を常時受け入れています。こうした研修は、おもに救急部の担当看護師が中心となり、実習カリキュラムの作成から静脈路確保手技まで直接指導を行っています。また、医師による診断内容の解説、救急外来・一般病棟業務、手術室業務の見学実習、臨床検査技師課、放射線技師課での研修など、搬送傷病者の病院収容後の診療経過が広く学べる体制となっています。今後は、海上保安庁に属する救急救命士の病院実習等も行います。

常設型救急ワークステーション活動

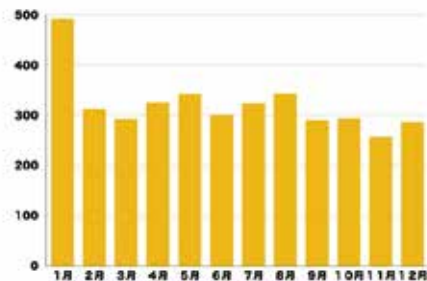
救急ワークステーション（WS）は、2008年6月に当院敷地内に開設されました。平日日勤帯は病院前医療、メディカルコントロール体制を熟知した当院のMC医師が常駐し、救急隊への同乗指導を行っています。現在、年間300-400症例の医師同乗指導を行っています。出動対象は、心肺停止症例のみならず、すべての救急事案に同乗出動することで、軽症、中等症事案の緊急度判定や搬送先選定への的確な指導が可能です。現場での直接指導に加え、帰還後直ちに活動事案を検証することで、救急隊員への教育効果はさらに高くなります。このように、救急隊と救急医（MC医師）が密に連携する取組は全国から注目されており、多数の関係者が見学に来られています。

令和元年度の診療実績（センターに関わる実績）

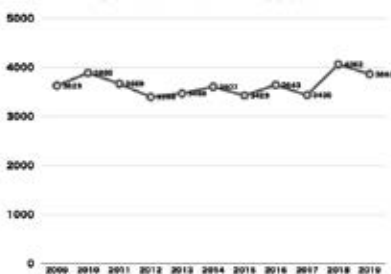
救命センター 受診者数 2019年



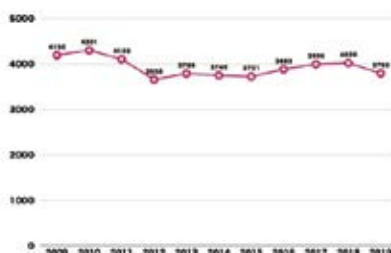
救急車搬入数 2019年



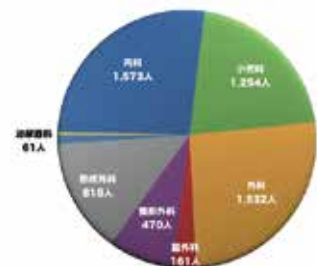
年間救急車搬入件数



年間救命救急センター入院者数



救命救急センター受診診療科 2019年



消化器・肝臓病センター

おかもと こうじ
センター長 岡本 好司

専門医等

日本外科学会 専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医・指導医
日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医
日本肝臓学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本消化器病学会 専門医・指導医
日本乳癌学会 認定医
日本腹部救急医学会 腹部救急教育医・腹部救急認定医
日本消化器外科学会 専門医・消化器がん外科治療認定医
日本Acute Care Surgery学会 認定外科医
日本血栓止血学会 血栓止血認定医

卒年

昭和60年



センターの紹介

～消化器疾患・肝臓疾患の専門医・薬剤師・看護師が連携して診療します～

消化器・肝臓病センターは2011年11月に各種消化器疾患・肝臓病を総合的に、専門的に、かつ先進的に医療を行うため開設されました。胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆嚢癌、膵臓癌、胆管癌等の悪性腫瘍に加えて、胃・十二指腸潰瘍、胆石症、ウイルス肝炎、肝硬変、脾腫、食道静脈瘤、膵炎、胃・十二指腸逆流症、大腸ポリープ、大腸憩室症等の良性腫瘍に対して消化器内科、消化器外科、肝臓外科、胆道外科、膵臓外科、内視鏡外科、放射線科の各診療科の密で機動的、横断的な連携により、高度な診療体制を構築するとともに、がん薬物療法認定薬剤師や看護師等とともにチームワーク良く診療を行っています。

また、救命救急センターと密な連絡をとり、腹膜炎、急性胆管炎、急性胆嚢炎、急性膵炎、急性腸炎等の急性腹症、吐血、下血、腹部外傷なども消化器の専門性を活かしながら、診療を行っています。

開設後すでに9年経過しましたが、手術件数、内視鏡件数、癌化学療法件数、緊急入院件数等すべて順調に増加しており、地域の皆様に役に立つ消化器疾患、肝臓疾患の専門センターとして今後とも機能していく予定です。

さらに、新病院移転後の2018年12月からは、西日本最大の広さと機能を持つ血管造影とCT撮影を備えた手術室（ハイブリッドオペレーションルーム）を新設し、出血疾患や外傷に対応するとともに、塞栓手術やCT併用の腫瘍焼灼術なども症例を伸ばしています。

取り扱う主な疾患

●診療の3本柱●

- (1) 放射線専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医、消化器外科専門医による検査・診断
- (2) 消化器内視鏡専門医、消化器がん外科治療認定医、消化器外科専門医、肝胆膵外科高度技能指導医、内視鏡外科学会技術認定医等による内視鏡治療、腹部各領域のがん手術、腹腔鏡手術、放射線専門医が行うカテーテル治療
- (3) がん化学療法認定医、がん治療認定医（教育医）、消化器病専門医、肝臓病専門医、がん薬物療法認定薬剤師や看護師が共同で行う、がん化学療法、分子標的治療、肝炎インターフェロン治療、肝炎抗ウイルス療法（インターフェロンフリー療法）等の薬物治療ワークステーションが参加し、週間および月間救急患者動向（救急入院患者数、消防救急車受入件数・応需率、CPA事案、ドクターカー出動事案など）を分析・報告しています。

2020年は、COVID-19に対して、術前にLAMP法を用いた検査を行い、安全に手術を施行するシステムを構築し、運営しております。



ハイブリッド手術室

災害外傷外科 外傷・形態修復・治療センター

たさき ゆきひろ
センター長 田崎 幸博

専門医等

日本形成外科学会 専門医
日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科分野指導医
日本熱傷学会 専門医
日本口蓋裂学会
日本頭蓋顎顔面外科学会
日本手外科学会
日本マイクロサージャリー学会
日本褥瘡学会

卒年

平成元年



センターの紹介

思いがけず起こったケガによって、目立つきずあとや手足の機能の障害が残ってしまうと、それまで行ってきた日常生活や仕事がしづらくなってしまいます・・・。

外傷やその他の形態異常によって、患者さんはQOL（クオリティ オブ ライフ、生活の質）を損なわれることがあり、身体の形態におよんだ変化によって患者さん自身には様々なストレスを生じることになります。

「外傷・形態修復・治療センター」では、先天的な形態異常や後天的な外傷・手術後の変形などに対し、チームとして機能的・整容的な再建を行うことで患者さんのQOL回復を目指します。

特徴・強み

事故災害等で発生する外傷に対して、主に救命救急センター、小児救急・小児総合医療センターが24時間体制で窓口となり、当センターの関連各科が滞ることなく連携し、初期から回復期まで専門的な治療を繋げて行くことができます。

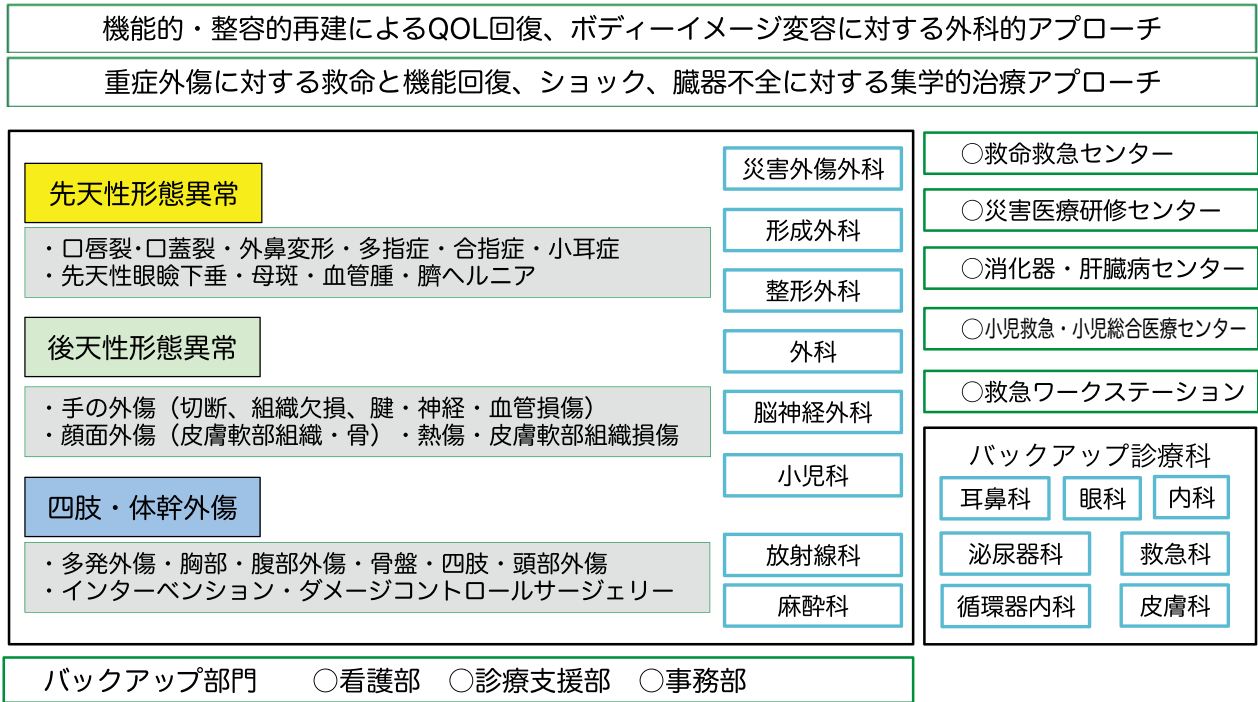
災害外傷外科は、外科系外傷治療に加え、IVRやショック、急性腎不全などの集学的治療も担っています。

口唇口蓋裂や小耳症、臍ヘルニアなどの先天性の形態異常に関しては、形成外科、小児外科、小児科、耳鼻科、麻酔科などが連携して、複数科合同での手術や、術前後の全身管理をPICU（小児集中治療室）で行うことも可能な体制を整えており、患児の成長の各段階に応じ、院外の施設を含めた多職種でのチームアプローチを特徴としています。

●Qスイッチ付ルビーレーザー

当院で保有するQスイッチ付ルビーレーザーによる照射療法は、外傷によって生じた色素沈着や外傷性の刺青を薄くする効果があり、外傷後の修復に活用しています。（太田母斑、異所性 蒙古斑、外傷性色素沈着症、扁平母斑等に対しては、保険適応となっていますので、形成外科外来にお問い合わせください。）

組織様式と主な対象疾患



※災害外傷外科は、外科系外傷治療に加え、IVRやショック、急性腎不全など集学的治療を担う

災害医療作戦指令センター・ 災害医療研修センター

センター長 いとう 伊藤 しげひこ 重彦



災害医療作戦指令センター（DMOC）

災害発生時には、北九州市地域防災計画及び北九州市医師会医療救護計画に基づき、市立八幡病院内にDMOCが設置されます。DMOCは、被災規模に合わせた被災地内の物的・人的医療資源の活用をコーディネートする機能を有しています。2016年4月の熊本地震、2017年7月の九州北部豪雨では、DMOCを立ち上げ、避難所情報の収集や北九州JMATの活動支援を行いました。2016年5月に本市で開催されたG7エネルギー大臣会合ではテロ等有事対応としてDMOCが設置されました。また地域包括ケアシステムが進むなかで、DMOCが発災ゼロ時からの医療支援、すなわち避難開始直後からの要配慮者支援ができるよう、訪問看護利用者、在宅療養者、透析患者、人工呼吸・在宅酸素療養者等を担当する機関、団体と連携するネットワークを構築していきます。詳細は病院ホームページをご覧ください。（図2：DMOCと関係機関・団体との連携）

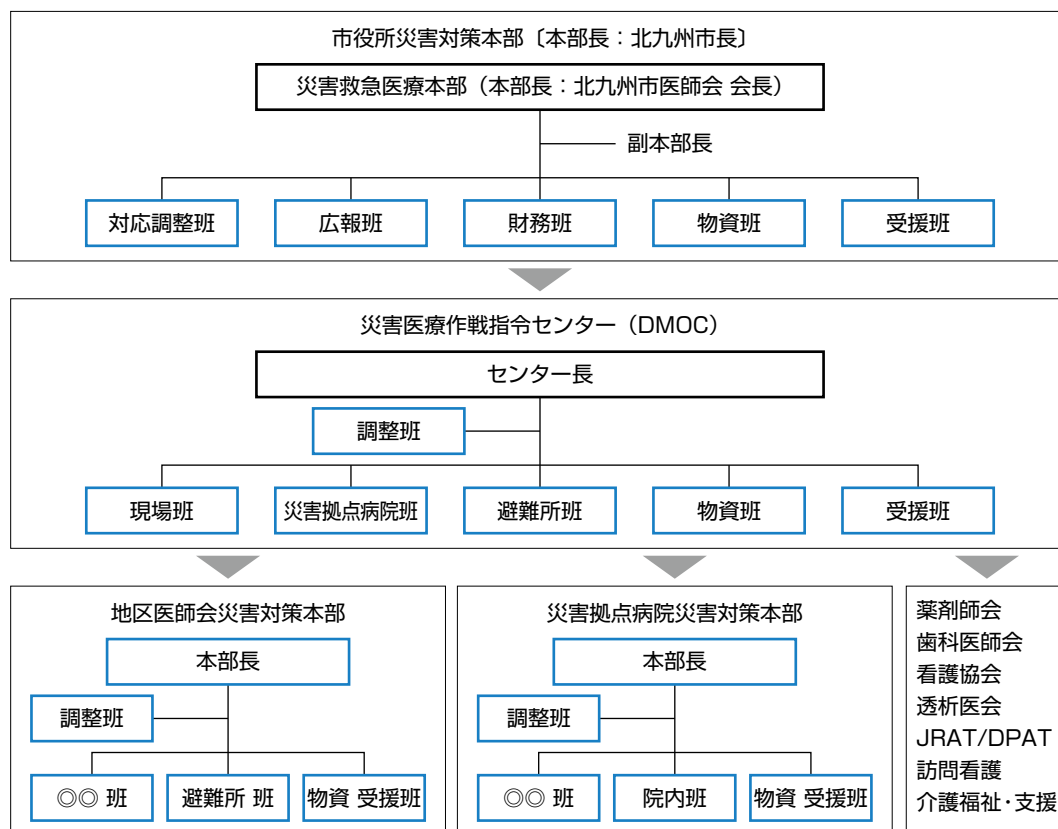


図2：災害医療作戦指令センター（DMOC）と関係機関・団体との連携

災害医療研修センター（DMEC）

1. 研修センター組織

東日本大震災の経験から、災害発生早期からの被災地内医療支援体制構築のため、2011年10月に災害医療研修センター（DMEC）、2017年4月に災害医療作戦指令センター（DMOC）が八幡病院内に設置されました。DMECは、様々な種類の災害における医療支援について、普段から関係機関と協議を行うセンターです。DMOCは、発災ゼロ時から効果的な医療支援を行うために、北九州市地域防災計画、福岡県地域防災計画に基づき、被災地内で活用できる医療資源を確認し、地域内の支援要請に対して効果的な医療資源投入を行うための情報管理センターです。（図1：災害医療研修センター（DMEC）の災害対応組織図）

2. 災害医療研修センター連絡協議会

発災ゼロ時からの被災地内医療支援体制（北九州モデル）構築のため、病院内に連絡協議会を設置し、会議に参加する関係機関、団体と連携して、被災地内医療支援活動に係る諸問題を検討します。（表1：連絡協議会 構成機関・団体）

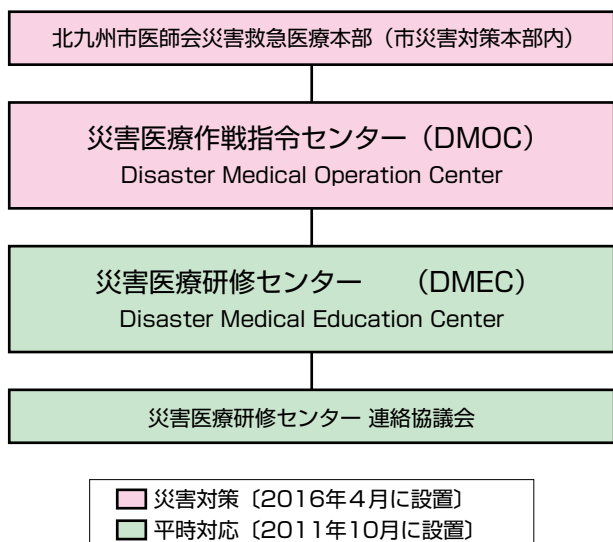


図1：災害医療研修センター（DMEC）の災害対応組織図

災害医療研修センター連絡協議会 構成機関・団体
北九州市医師会
北九州市八幡医師会
遠賀中間医師会
北九州市薬剤師会
北九州市歯科医師会・九州歯科大学
福岡県看護協会
福岡県透析医会
JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）
DPAT（災害派遣精神医療チーム）
学識経験者
北九州市危機管理室
北九州市保健福祉局
北九州市消防局
遠賀郡消防本部
中間市消防本部
災害医療研修センター事務局

表1：災害医療研修センター（DMEC）連絡協議会 構成機関・団体

3. 災害医療救護訓練の実施、災害医療研修会の開催

研修センターでは、地域医師会と連携して、医療従事者が参加しやすい平日午後7時から開始する「仕事帰りの災害訓練研修会」、「DMOCミニ訓練」を行っています。また、消防機関をはじめ、警察、海上保安庁、国土交通省北九州空港事務所等関係機関・団体が連携する総合訓練にも積極的に参加しています。

4. センターの役割・機能

(1) 施設機能

当院は災害拠点病院、福岡県DMAT指定医療機関、原子力災害医療協力機関、北九州空港緊急連絡協議会の構成施設です。北九州市及び福岡県の地域防災計画において、災害医療支援チーム活動のコマンドー施設、北九州地域災害医療コーディネートの統括施設です。

(2) 屋上ヘリポート

10トン離陸加重に対応可能な県内屈指の屋上ヘリポートは、自衛隊及び海上保安庁の大型ヘリが発着可能です。海上保安庁の海難事故に対する拠点施設として救命医療活動を行います。

(3) 化学災害対応除染テント、新興感染症対応陰圧テント

北九州市医師会災害時医療救護計画に基づき、化学災害等に対応するための除染テント、北九州市新型インフルエンザ対応マニュアルに基づき、発熱外来等に対応するためのHEPAフィルターを装備した医療用陰圧テントが敷地内で常時設置可能です。

(4) ハイパーレスキュー活動

多数傷病者事故等発生時には、敷地内に設置された北九州市消防局救急ワークステーション、特別科学救助隊と当院医療チームが連携して、迅速な医療救護活動を行います。

(5) DMAT隊員数（2019年10月現在）

- ①日本DMAT隊員：16名
統括DMAT2名を含む医師6名、看護師7名、調整員3名
- ②福岡県DMAT隊員：4名
職種：医師1名、看護師2名、臨床検査技師1名



化学災害対応除染テント



新興感染症対応陰圧テント

小児救急センター

にしやま かすたか
センター長 西山 和孝

専門医等

日本救急医学会 専門医
日本外科学会 専門医

卒年

平成14年



センターの紹介

夜間・休日、病気・怪我を問わず子どもの診療を行っております。初期診療・対応を当センターが行い、必要に応じて各科への橋渡し役も担います。小児専用の集中治療室(PICU)にて重篤な子どもの管理や他院で治療が必要な場合の救急車やヘリでの搬送にも携わります。

また、院内の活動のみならず院外での教育活動や災害などにも関わっています。

診療体制

受付順による診察ではなく、看護師により緊急度・重症度を判断するトリアージを行っているため診察の順序が前後する場合があります。また、地域の感染流行などを考慮して発熱を有する子どもに対して別途対応を行う場合があります。

取り扱う主な疾患

保護者が受診しようと思った病気・怪我すべてを取り扱います。PICUには、救命救急入院料、特定集中治療室管理料の算定対象基準を元に作成した入室基準に準じた患児が入室します。

センターの特徴・強み

病気・怪我を問わず診療しておりますので、子どもであれば当センターにて対応しておりますので、紹介診療科に迷う場合は当センターにご紹介下さい。

診療実績

外来受診者数	51,412人
夜間・休日受診者数	30,402人
救急車台数	1,166台
入院受診者数	4,310人
夜間・休日入院者数	1,903人
PICU入室患者数	270人

小児総合医療センター

かみその じゅんじ
センター長 神 菌 淳 司

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医
日本血液学会 専門医
日本小児血液・がん学会 暫定指導医
日本小児救急医学会 理事
日本子ども虐待医学会 理事
日本SIDS・乳幼児突然死予防学会 評議員
福岡県救急医療協議会 小児救急医療専門委員会 委員長
北九州市要保護児童対策地域協議会 会長
九州・沖縄小児救急医学研究会 代表世話人
公立大学法人 九州歯科大学客員教授

卒年

平成2年



ごあいさつ

小児救急・小児総合医療センターは、多くの小児科専門医・救急専門医・集中治療専門医とその指導の元に学ぶ多くの専攻医により、チーム医療を基本として“子どもたちの安全と安心”を目指しています。来院する子どもたちの診療のみならず、養育不安、発達発育の心配など、そのご家族に直面した問題を一緒に考え、多方面にわたる医療サポートを心がけています。今後も、市民の皆様のニーズに迅速かつ適確に、常に謙虚にお応えできるよう心がけてまいります。

センターの使命

24時間365日 こども達の“安全・安心”を守ること
すべての内因系病態・疾患と外傷・外科系疾患、救急搬送と集中治療を必要とする緊急性の高い子どもたちに迅速に対応いたします。

子どもたちを取り巻く養育環境・育児不安の問題にも、多機関多職種で対応いたします。

4つの24時間365日提供可能な“安全・安心”を守ることを目指しています。

- すべての内因系病態・疾患に対応
- すべての外傷・外科系疾患に対応
- すべての搬送と集中治療に対応
- すべての子ども虐待事案への対応

診療体制

副院長 天本 正乃
統括部長・小児総合医療センター長 神 菌 淳 司
主任部長 今村 徳夫 安井 昌博 高野 健一
5A病棟 八坂 龍広
5B病棟 興梠 雅彦
小児救急センター長 西山 和孝
小児外来医長 富田 一郎
小児集中治療部医長 小林 匡

【一般小児外来 受付時間 8:00~11:00】

山根 浩昌(月・木) 石橋 紳作(火・水)
天本 正乃(火・水・金) 今村 徳夫(月・木)
高野 健一(火・金) 富田 一郎(火・金)
八坂 龍広(水・木) 長嶺 伸治(月・金)
森吉 研輔(月・水)

【小児専門外来(予約制) 受付時間 午後13:00~16:00(*非常勤医師)】

血液・腫瘍(水) 稲垣 二郎・興梠 雅彦・安井 昌博
免疫・膠原病(月・水・木) 神 菌 淳 司・西小森 隆太>(*2/4週木)
神経てんかん(金) 天本 正乃・下野 昌幸*・松石 豊次郎*
循環器(火:午前 金:午後) 長嶺 伸治・富田 芳江・
籠手田 雄介>(*火)
内分泌・代謝(水 2/4週) 富田 一郎・荒木 俊介*
夜尿症(月・木) 今村 徳夫
消化器・肝臓病(月) 水落 建輝(*3週のみ)
腎・代謝(水) 田中 征治(*2週)
アレルギー(木) 小野 佳代・沖 剛>(*1/3週)
集中治療フォローアップ外来 小林 匡・福政 宏司(隔週で交互に担当)
発達障害(月・木) 村上 知恵
家族とこどもの支援外来 藤崎 徹・森吉 研輔・
神 菌 淳 司(随時対応)
心理カウンセリング 蛭木 聡子(完全予約制)

【小児救急・小児総合医療センターホームページ】
<https://yahataped.jp>

【2019年度外来・入院管理実績】

小児外来患者数: 51,412名 小児入院患者数: 4,310名
入院延べ患者数: 37,225名

センターの概要

小児病床数(最大 134 床)

【小児病棟】42 床 2 病棟 全 84 床(小児入院医療管理料1)
うち無菌エリア 10 床
(クラス 100: 2 床、クラス 1000: 8 床)

【小児集中治療室】8 床(小児入院医療管理料1)

【救急病棟】12 床(急性期一般1)

【小児病棟】20 床 1 病棟(急性期一般1)

10 床 1 病棟(小児入院医療管理料4)

【小児外来・ER】外来診療室: 8 室、バックベット: 10 床
救急搬送室: 6 床

施設認定

日本小児科学会 研修認定施設
小児血液・がん学会専門医研修施設
福岡県児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院
小児神経専門医研修認定施設 (関連施設: 久留米大学)

当院における専攻医・フェロー教育の特徴

【小児科専攻医】

小児科学会専門医を目指す3-5年目の医師で外来・病棟の診療と臨床研究に従事

入院担当症例数 年間400例を担当

ER診療 2年目より開始・外因系・外傷初期対応を学ぶ

内因系のみならず全ての外傷・外因系も研修をカバー

【専門分野研修】

下記の4つの専門分野の患者診療のみならず病棟・外来運営・教育を目的としたプログラム

小児血液腫瘍・造血細胞移植部門

責任者 稲垣二郎 (小児科部長)

安井昌博 (小児科主任部長)

小児救急・小児集中治療部門

責任者 西山和孝 (小児救急センター長)

小林匡 (PICU長)

小児神経てんかん診療部門 (久留米大学と連携)

責任者 天本正乃 (副院長)

子ども虐待医療部門

責任者 神菌淳司 (統括部長)

当院の診療の特徴

(1) 小児初期診療から集中治療を一手に担う

重篤小児の搬送症例をそのままPICUや病棟で管理することが可能で、バランス良く多岐に渡る症例の経験が可能です。救急で診療した患者をそのまま病棟で継続管理を行うので、急性期から慢性期の移行の流れをダイナミックに経験することができます。小児の外傷・外因系および周術期の症例も当センターの医師が全てを管理します。

(2) 毎日の総合回診とグループ診療体制

教育の基本姿勢は何と言っても365日毎日行われる病棟・PICUラウンドです。そこで挙がったテーマや内容などを電子媒体で共有し、情報のアップデートを可能としています。365日毎日総合回診・1日2回のケース・カンファレンス・グループ診療体制を確立させ、安全な医療を提供します。

(3) 小児早期警告スコアリング・システム PEWSの導入

院内外の切れ目のない医療の提供を目的に導入された本邦初の「子ども身体評価とバイタルサイン評価」を修得できます。小児救急医学会を中心に学会急変対応教育プログラムとしても利用されているシステムです。

(4) 小児臨床超音波学の推進

圧倒的な症例数とともに小児超音波による診断と侵襲の少ない子どもに優しい医療を展開可能としています。

(5) 小児神経・てんかん診療部

圧倒的な症例数とともに神経筋疾患・てんかん疾患の迅速な診断と希少疾患・病態への治療を実践しています。特に北九州市立総合療育センターとの専攻医プログラム連携は特筆すべき当院の特徴です。

(6) 小児血液・腫瘍・造血幹細胞移植部

2017年日本血液学会専門医・日本造血幹細胞移植専門医が専属で着任しました。新病院では無菌室10床を開設し、造血細胞移植療法を2019年に開始いたしました。

(7) チャイルド・デス・レビューと子ども虐待医学の発展

院内に設けられた家族と子どもの支援委員会では、死因究明や発生予防可能性・養育環不全を評価しています。身体的虐待では、頭部外傷・熱傷・骨折などの子ども虐待医学からみた診療施設を学ぶことができます。

主催する勉強会およびワークショップ

(1) 小児紹介患者・搬送症例検討月例会 (HOPE)

月一回開催 第4 火曜日

(Monthly Meeting Of Hospital Pediatrics & Emergency Medicine)

当該月の入院患者の動向・感染症発生動向・救急搬送症例統計・虐待事案統計を紹介し、専攻医が日頃から診療所・病院よりご紹介いただいた症例のなかから教訓的な症例をピックアップして専攻医のための医学的検証を行う教育の場となっています。

(2) 小児救急医療ワークショップ in 北九州 主催 毎年7月 週末

北九州市保健福祉局とともに2005年から開催され、2019年には第14回を迎えました。この小児救急医療ワークショップ in 北九州では、小児救急医療における様々な課題をテーマとして参加型ワークショップを継続開催しています。

(3) 家族と子どもの支援委員会

Family & Child Protection Team 月例検証会 第4木曜日

当院は福岡県児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院として、福岡県警本部・地方検察庁小倉支部・北九州市子ども総合センター (児童相談所)・北九州市子育て支援課・産業医大法医学教室とともに、毎月50-60症例のオーバービュー事例検証とシリアスケースに対する詳細な検証会を開催し、虐待医学の視点から予防に繋がる提言を立案しています。

豊富な関連・連携病院・基幹病院群

県内

久留米大学 小児科

北九州市立総合療育センター 小児科

北九州市立医療センター 母子周産期センター

JCHO 九州病院 小児循環器科・小児科・新生児科

産業医科大学 小児科・母子周産期センター

おなが病院 小児科

新水巻病院 小児科

県外

愛媛大学 小児科

松戸市立総合医療センター 小児科・小児集中治療科

神戸市立中央市民病院 小児科

手稲啓仁会病院 小児科



市川光太郎 名誉院長の書

小児救急・総合医療センター スタッフ紹介

副院長 天本 正乃 (あまもと まさの)

卒年 昭和60年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医

統括部長 神菌 淳司 (かみぞの じゅんじ)

卒年 平成2年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医/日本血液学会 専門医/日本小児血液・がん学会 断定指導医/日本小児救急医学会 理事/日本子ども虐待医学会 理事/日本SIDS・乳幼児突然死予防学会 評議員/公立大学法人 九州歯科大学客員教授

小児科主任部長 今村 徳夫 (いまむら のりお)

卒年 平成元年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医

小児科主任部長 安井 昌博 (やすい まさひろ)

卒年 平成2年

専門医等

日本小児科学会 小児科専門医・指導医/日本血液学会認定血液専門医・指導医/日本がん治療認定医機構・暫定教育医/日本小児血液・がん学会 小児血液・がん専門医・指導医・評議員/日本造血細胞移植学会 評議員・造血細胞移植認定医/日本輸血・細胞治療学会認定医・評議員/細胞治療認定管理士

小児科主任部長 高野 健一 (たかの けんいち)

卒年 平成13年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医

小児科部長 石橋 紳作 (いしばし しんさく)

卒年 昭和63年

専門医等

日本小児科学会 専門医

小児科部長 山根 浩昌 (やまね ひろまさ)

卒年 平成7年

小児科部長 稲垣 二郎 (いながき じろう)

卒年 平成9年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医/日本血液学会 専門医・指導医/日本小児血液・がん学会 専門医・指導医/日本造血細胞移植学会 移植認定医/日本血液学会 評議員/日本小児血液・がん学会 評議員/日本造血細胞移植学会 評議員

小児科部長 興枿 雅彦 (こうろき まさひこ)

卒年 平成12年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医/日本血液学会 専門医/日本がん治療学会 認定医/日本造血細胞移植学会 移植認定医

小児科部長 西山 和孝 (にしやま かずたか)

卒年 平成14年

専門医等

日本救急医学会 専門医
日本外科学会 専門医

小児科部長 富田 芳江 (とみた よしえ)

卒年 平成16年

専門医等

日本小児科学会 専門医

小児科部長 富田 一郎 (とみた いちろう)

卒年 平成16年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医

小児科部長 小林 匡 (こばやし まさし)

卒年 平成16年

専門医等

日本小児科学会 専門医/日本救急医学会 専門医

小児科部長 八坂 龍広 (やさか たつひろ)

卒年 平成17年

専門医等

日本小児科学会 専門医

小児科部長 小野 友輔 (おの ゆうすけ)

卒年 平成17年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医

小児科部長 小野 佳代 (おの かよ)

卒年 平成17年

専門医等

日本小児科学会 専門医

小児科部長 福政 宏司 (ふくまさ ひろし)

卒年 平成17年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医/日本集中治療医学会 集中治療専門医

小児科部長 岡畠 祥憲 (おかはた よしのり)

卒年 平成19年

専門医等

日本救急医学会 専門医

小児科部長 長嶺 伸治 (ながみね しんじ)

卒年 平成14年

専門医等

小児科副部長 森吉 研輔 (もりよし けんすけ)

卒年 平成25年

小児科副部長 藤崎 徹 (ふじさき とおる)

卒年 平成23年

廣上 晶子 (ひろかみ あきこ)

卒年 平成27年

東 陽三 (あずま ようぞう)

卒年 平成28年

福田 祥子 (ふくだ しょうこ)

卒年 平成28年

落合 健太 (おちあい けんた)

卒年 平成28年

堀川 翔伍 (ほりかわ しょうご)

卒年 平成29年

白川 忠信 (しらかわ ただのぶ)

卒年 平成29年

吉田 峻 (よしだ しゅん)

卒年 平成29年

佐々木 淳 (ささき あつし)

卒年 平成28年

山鹿 友里絵 (やまが ゆりえ)

卒年 平成30年

(嘱託医) 村上 知恵 (むらかみ ちえ)

卒年 平成3年

専門医等

日本小児科学会 専門医/日本小児神経学会 専門医

診療支援部・看護部・医療連携室



薬剤課

課長 村本 眞由美



部門の紹介

薬剤課は、チーム医療の一員として薬学的視点から医薬品の有効性・安全性を確保することを基本姿勢としています。救急医療に対応するため24時間の勤務体制となっています。

安全な薬物療法のため、患者さんに随時服薬指導を行ないます。入院中は持参薬・薬物相互作用・薬物アレルギー・検査値のチェックや副作用の確認をし、医師に処方提案も行ないます。がん患者さんには、抗がん剤の無菌調製やレジメン管理・情報提供・副作用防止の提案等を行ない安全な化学療法を提供しています。

主な業務内容

【調剤業務】

処方監査をして調剤します。

【薬剤指導】

各種デバイス等の指導をします。

【製剤業務】

院内製剤を調製します。

【医薬品情報業務】

最新の医薬品情報を整理し、必要な情報を迅速に提供します。月1回「DIニュース」の発行をします。

【薬剤管理指導業務】

入院患者の持参薬鑑別、患者への薬剤の説明、自覚症状や検査値をもとに副作用の確認をします。

【抗がん剤等の無菌調製】

レジメンに基づき、各患者の状態に応じた抗がん剤の無菌調製を行ないます。

【治療薬物モニタリング】

適正な薬物療法のため血中濃度から投与設計・モニタリングを行ないます。

特徴・強み

当院薬剤課の特徴としては、小児の薬物療法に強いということがあげられます。全国でも数少ない小児薬物療法認定薬剤師も在籍しています。患児だけでなく、保護者に対しても医薬品に関する指導や助言・教育を行うことのできる認定です。

小児の薬物療法は、がん化学療法の管理や成長ホルモンのデバイス説明、糖尿病指導、臨床試験への参加など多岐にわたり、薬剤指導には成人とは全く違う難しさがあります。

なかでも小児のがん化学療法を専門的に行える施設は全国的にも少なく、当院の特徴のひとつと言えます。小児は、成人よりも抗がん剤の忍容性が高く、多量の抗がん剤を投与して完治を目指します。治療成績は大変良いのですが、その分副作用も多く、副作用モニタリ

ングや処方支援が必要です。また小児のレジメンは3か月から最長2年も続くため、細かいレジメン管理や患者ごとに細かな調節が必要で、薬剤師が密接に関わることで患児のQOLを担保できます。患者家族の抗がん剤の暴露対策にも注意が必要です。さまざまな観点から薬剤師が深くかかわることでレジメン遂行の達成率があがると思っています。

診療実績

名称	件数
処方箋枚数(1日平均) 入院	166.9枚
処方箋枚数(1日平均) 外来	0.5枚
注射処方件数(1日平均)	790.2枚
抗癌剤調整件数	1,166件
がん患者管理指導料3算定件数	21件
薬剤管理指導実施件数	8,426件
TDM解析業務件数	61件
吸入指導件数	169件
インスリン・SMBG指導件数	68件
成長ホルモン・デバイス指導件数	10件
入院支援センター面談件数	154件

資格認定等

名称	人数
日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師	1名
日本薬剤師研修センター認定薬剤師	11名
日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師	4名
がん薬物療法認定薬剤師	2名
認定実務実習指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会認定指導薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士(CDEJ)	3名
福岡県・糖尿病療養指導士(LCDE)	3名
NST専門療法士	1名
小児薬物療法認定薬剤師	1名
日本災害医療薬剤師学会災害医療支援薬剤師	1名
救急認定薬剤師	1名
肝炎治療コーディネーター	7名
日本医療安全学会高度医療安全推進者	1名
日本災害医学会 災害医療認定薬剤師	1名
初級呼吸ケア指導士	1名
日本医療安全学会高度医薬品安全推進者	1名

臨床検査技術課

課長 さとう あつこ
佐藤 敦子



部門の紹介

臨床検査技術課は臨床検査技師男性7名、女性20名、受付業務に女性3名で対応しています。20歳30歳代も多い中、定年退職後再任用として頑張っている職員もいます。

検査を通して病院機能に貢献できるように全員で日々努力しております。また、臨床検査技師学校の学生実習を受け入れ、育成にも協力しています。

主な業務内容

- 【一般検査】尿・便・髄液・体腔液等の一般スクリーニング・ウィルス抗原迅速検査
- 【病理学的検査】組織検査・細胞検査・病理解剖
- 【血液学的検査】血球数算定・分類、凝固線溶系検査
- 【生化学的検査】臨床化学検査
- 【生理機能検査】超音波検査・心電図検査・聴力検査・脳波検査・肺機能検査等
- 【輸血検査】血液型・不規則性抗体スクリーニング検査・交差適合試験
- 【細菌学的検査】一般細菌培養・同定・感受性、抗酸菌培養・同定、遺伝子検査

特徴・強み

検体検査では、患者さんから採取された様々な検体を対象として、正確なデータを早く患者さんのもとにお届けできるよう検査に臨み、質の高い検査を維持できるよう努力しています。

生理機能検査では、患者さんと直接接する検査なので、患者さんに対して十分な説明のもと安心して検査を受けていただけるよう心がけています。

病院の掲げる大きな柱の1つである救急医療にも対応すべく夜勤者を2名配置し、24時間検査ができる体制をとっています。また、もう1つの柱、災害時における医療の提供を行うためDMATにも2名が参加しており、定期的な訓練等も行っています。

資格認定等

- ・細胞検査士 5名
- ・認定超音波検査士 6名
- ・認定輸血検査士 1名
- ・有機溶媒作業主任者 2名
- ・特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 1名
- ・認定臨床微生物検査技師 1名
- ・感染制御認定臨床微生物検査技師 1名
- ・健康食品管理士 1名
- ・特定病原体等の運搬責任者 2名
- ・特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 1名

診療実績

臨床検査技術課 令和元年度検査件数(月報)

	一般検査	生化学検査	血液検査	生理検査	病理検査	細菌検査	時間外検査	総件数
4月	15,740	44,597	17,757	1,110	961	1,787	20,587	102,539
5月	14,187	43,289	17,222	1,066	952	1,851	21,997	100,564
6月	14,679	44,572	17,706	1,092	1,378	1,834	20,869	102,130
7月	16,311	49,975	19,719	1,197	1,032	1,953	19,443	109,630
8月	15,525	47,143	18,604	1,123	998	2,182	24,776	110,351
9月	12,522	36,160	15,355	906	1,150	1,644	19,983	89,920
10月	14,316	39,788	16,312	752	1,094	1,916	19,223	93,381
11月	13,441	38,376	15,699	850	1,134	1,876	18,229	89,605
12月	13,434	37,269	15,125	854	1,124	1,796	23,478	93,080
1月	13,770	39,077	15,804	872	1,097	2,136	23,351	96,107
2月	11,993	35,093	14,535	789	818	1,672	18,547	83,447
3月	13,454	37,891	15,425	976	886	1,511	15,745	85,888
合計	169,372	495,210	199,263	11,587	12,624	22,358	246,228	1,156,642
月平均	14,114	41,288	16,605	966	1,052	1,863	20,519	96,387

臨床検査技術課 令和元年度検査外来・入院比率

	一般検査		生化学検査		血液検査		生理検査		細菌検査	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
4月	13,087	2,653	29,766	14,928	10,535	7,228	868	253	1,205	582
5月	12,142	2,045	28,691	14,598	10,132	7,090	888	178	1,206	645
6月	12,691	2,060	29,156	15,416	10,234	7,472	900	192	1,295	539
7月	13,079	3,232	32,459	17,627	11,296	8,436	970	227	1,208	745
8月	12,820	2,705	31,290	15,853	10,835	7,769	818	305	1,482	700
9月	10,715	1,807	26,656	11,504	9,752	5,803	740	166	1,415	429
10月	11,783	2,533	25,760	14,022	9,552	6,760	703	188	1,233	683
11月	10,569	2,872	24,220	14,178	8,883	6,827	771	166	1,179	697
12月	11,022	2,412	24,430	12,856	8,922	6,203	686	168	1,024	772
1月	11,252	2,518	25,274	13,861	9,136	6,674	689	183	1,281	855
2月	9,787	2,206	22,254	12,855	8,200	6,345	591	198	1,095	577
3月	11,100	2,354	25,875	12,058	9,508	5,927	798	178	1,030	485
合計	140,047	29,397	325,831	169,756	116,985	82,334	9,422	2,402	14,653	7,709
月平均	11,671	2,450	27,153	14,146	9,749	6,861	785	200	1,221	642



放射線技術課

課長 さだすえ 貞末 かずひろ 和弘



部門の紹介

診療放射線技師23名、24時間交代勤務制で放射線業務をおこなっています。主な検査内容はX線撮影、透視、CT検査、MR検査、RI検査、血管造影、心血管造影です。近年の医療の高度化、検査時の患者負担軽減に対応すべく、各部門で知識と技術の向上に努めています。新病院になり、多くの機器が最新型に更新されました。高度医療機器の共同利用として、これまで以上に地域医療機関からの検査依頼もお願いいたします。

主な業務内容

- ① X線撮影（撮影室：4室）
（一般撮影、デンタル、マンモグラフィー）
- ② 骨密度測定（1台）
- ③ CT検査（256列：1台・64列：1台）
- ④ MR検査（1.5Tesla：1台）
- ⑤ RI検査（1台）
- ⑥ 透視検査（2台）
- ⑦ 血管造影検査
（C-arm血管造影装置・64列CT装置ハイブリッドシステム：1台）
（第8手術室）
- ⑧ 心血管造影検査（1台）

特徴・強み

各部門にチーフ担当者、特にCT、MR検査部門には専従技師を配置しています。各種学会、勉強会への参加も積極的におこない、知識、技術の向上に励んでいます。検査を安全に実施するため、医療放射線被ばくの適切な低減と被ばく線量管理にも取り組んできました。その結果、公益社団法人日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設認定制度の審査基準により、2019年2月1日、「医療被ばく低減施設」に認定されています。この認定施設は福岡県で11施設、北九州では3施設のみと高度なものであり、市立八幡病院の努力の結果だと自負しています。

地域医療、救急医療を担う病院の理念のもと、すべての救急検査に対応できる診療放射線技師を育成し、交代勤務制により24時間対応しています。患者にもスタッフにも優しい職場環境を目指しながらありますが、しばしば小さな問題は発生しています。質問、苦情などあれば、ぜひ声をおかけ下さい。

資格認定等

- ・第1種放射線取扱主任者：3名
- ・検診マンモグラフィー撮影認定：1名
- ・磁気共鳴専門技術者：3名
- ・X線CT認定技師：5名
- ・AI認定：4名
- ・画像等手術支援認定：2名
- ・血管撮影・インターベンション専門認定：1名
- ・放射線管理士：1名
- ・放射線機器管理士：2名
- ・医療安全管理士：1名
- ・臨床実習指導教員認定：1名
- ・医療情報技師：1名

診療実績

2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
一般撮影	1997	2150	1926	2030	2101	1860	1960	1827	1796	1802	1708	1,773	22,930	1,910.8
造影透視	144	144	136	157	142	122	128	134	154	150	153	158	1,722	143.5
CT	595	640	606	659	635	578	569	579	580	646	534	610	7,231	602.6
MR	253	232	227	278	244	224	264	247	227	216	202	237	2,851	237.6
RI	17	17	11	17	12	16	12	12	13	9	15	6	157	13.1
血管造影	3	3	6	3	5	5	3	4	2	5	3	3	45	3.8
心カテ	27	29	17	18	9	7	13	12	0	1	0	0	133	11.1
MMG	2	5	5	3	1	4	3	5	5	7	3	2	45	3.8
骨塩	8	20	17	12	16	24	17	14	11	15	12	16	182	15.2
コピー	271	326	285	302	347	278	342	323	264	290	312	309	3,649	304.1

リハビリテーション技術課

理学療法士長 すざき 須崎 しょうじ 省二



部門の紹介

当院は（１）救命救急医療（救命救急センター）、（２）小児救急医療（小児救急・小児総合医療センター）、（３）災害支援医療（災害医療研修センター）を政策医療に掲げています。

リハビリテーション技術課では主治医の指示により、主に入院患者さんの発症直後からの急性期・早期リハビリテーションをリスク管理に注意しながら実施し、患者さんの一日も早い社会復帰を目指しております。

スタッフ数：医師1名、理学療法士10名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、受付2名。

主な業務内容

- ・リハビリ診療：疾患別リハビリテーション（運動器疾患、呼吸器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患）、がんのリハビリテーション、摂食・嚥下療法など。
- ・チーム医療への参加（カンファレンス、回診など）
- ・各種委員会への参加

特徴・強み

当院は急性期の地域支援病院で一般診療科、小児科など様々な疾患の患者さんを受け入れている特徴があります。

2019年12月の新病院移転により、手術室が新しくなり整形外科疾患の人工関節手術や関節内の手術などが行われるようになりました。医師、看護師らと共にチームアプローチを行い、術前・術後のリハビリテーションを積極的に行っております。術後の成績も良く、患者さんのQOL向上につなげていけるよう頑張っております。

資格認定等

- 3学会合同呼吸療法認定士（PT5名、OT2名）
- 心臓リハビリテーション指導士（PT1名）
- がんのリハビリテーション研修終了（PT5名、OT2名、ST1名）
- 介護支援専門員（ケアマネージャー）（PT3名、OT1名）
- 認定理学療法士（運動器）（PT1名）
- A-ONE認定評価者（OT1名）
- 失語症者向け意思疎通支援者（ST1名）
- 福祉住環境コーディネーター2級（OT2名）
- SW（OT2名）
- 骨粗しょう症リエゾンマネージャー（OT1名）



栄養管理課

ひあさ みちよ
係長 日浅 実千代



部門の紹介

医療の一環として、入院患者さんの栄養管理を行い、安全でおいしい食事の提供を行うと共に、入院及び外来の患者さんに病態に応じた食事について指導を行っています。

食事提供業務は一部委託（エームサービス株式会社）を行い実施しています。

職員は、病院管理栄養士5名、委託会社管理栄養士3名、栄養士3名、調理師2名、調理員28名(パート)となっています。

主な業務内容

食事の提供：一人ひとりの病態や年齢性別に合わせた食事を提供するほか、食欲の無い患者さんには聞き取りを行い、主食の種類や量の変更、栄養補助食品を追加するなどの対応を心がけています。

栄養指導：入院および外来患者さん対象の個別栄養指導を行い、食事療法の支援を行っています。

特徴・強み

一人ひとりの患者さんに適切な食事とリハビリができるように、2017年に言語聴覚士、摂食嚥下障害看護認定看護師とともに嚥下食の見直しに取り組み、学会基準に沿った嚥下食の提供を行っています。その後も見直しを行い、2020年度からは新献立により提供を行い、より多くの患者さんに、ご自分の口で食べていただけるように取り組んでいます。

その他にも、食物アレルギーの有る患者さんには個別の献立にて対応を行っています。

また、他職種とのチーム医療として、栄養サポートチームでは、事務局的な役割として、勉強会、月1回の運営委員会、ラウンド等の準備を行っています。その他としては、褥瘡ラウンドや脳外科カンファレンスにも参加し、患者さんの早期回復につながるよう連携をとっています。この様に、一人ひとりの状態に適した食事の提供に今後も努めていきます。

資格認定等

- ・NST専門療法士
- ・福岡県糖尿病療法指導士



臨床工学課

技士長 伊香 元裕
いこう もとひろ



部門の紹介

当院の臨床工学課には、臨床工学技士（国家資格）5名が在籍しています。臨床工学技士は現在の医療に不可欠な医療機器に関する専門職であり、チーム医療の一員として診療技術支援および医療機器管理業務を行っています。医療の進歩に付随して医療機器もより複雑化し専門性も増す中、それらを使用した検査・治療が安全かつ効果的に行われるような基盤整備を当課が担っています。

主な業務内容

- ・医療機器管理業務
（中央管理/日常点検/定期点検/修理/更新・廃棄）
- ・手術立会い（医療機器セットアップ/不具合対応）
- ・肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
- ・各種血液浄化療法
（持続緩除式血液濾過/血漿交換/吸着式血液浄化法 など）
- ・造血幹細胞採取
- ・チーム医療活動（呼吸ケアサポートチーム/感染制御チーム）

特徴・強み

当院は救命救急センター、小児救急・小児総合医療センターおよび消化器・肝臓病センターを有し、成人・小児・急性期・慢性期を問わず多種多様な病態に対処しています。当課では各種血液浄化療法や緊急手術、呼吸療法などの技術サポートを行う事でその体制を支えています。中でも血液浄化療法に関しては、小児患者に対する各種急性血液浄化や自己免疫疾患に対する免疫吸着など様々な治療の経験を有し、各診療科の要望に応じて迅速に対応可能となっております。

また、平成30年度の新病院移転に伴い、生体情報モニタシステムや医療機器管理システム、重症系部門システムなどが新規導入され、診療環境が整備されました。その中で医療機器に関連する領域は当課でマネジメントを行い、看護師業務の負担軽減にも繋がっています。

人員の増員に伴い保守管理する医療機器の領域も拡大中であり、更なる医療機器安全環境の向上に努めていきます。

業務実績

医療機器使用後点検	8568件
医療機器定期点検	453件
医療機器修理	301件
急性血液浄化療法	34件
造血幹細胞採取	4件
ラジオ波焼灼術	10件

その他業務（手術室立会い/呼吸ケアサポートチームラウンド/医療安全ラウンド）
医療機器安全管理責任者業務

看護部

看護部長 よしくに 吉國 さわこ 佐和子



ごあいさつ

看護部は病院・看護部理念のもと「看護力を高め、チーム力を強めよう」をキーワードに、「患者さん中心の視点」と「チーム医療の推進」を重要視し日々の看護を実践しています。今年度は、目標を以下のように設定し、看護師一人一人が、看護師としての役割と責務を考え、その中でやりがいと誇りを持ち、組織の中で成長できることを目指しています。

また「知・好・楽」という言葉には、「その仕事を知っているだけの人は仕事を好きな人にはかなわない。さらに、その仕事を好きなだけの人は、仕事を楽しんでいる人にはかなわない」という意味があります。看護という仕事が好きでその仕事に誇りを持ち楽しんで取り組むことができるよう、職員を大事にし働きやすい職場環境作り、教育体制の整備にも力を入れていきたいと思えます。

【令和2年度 看護部目標】

- 1) 安全で質の高い看護の提供
- 2) 働き方改革を意識した業務改善
- 3) 病院経営への積極的な参加
- 4) 働きやすく楽しい職場作り

看護部の方針

八幡病院看護部は、救急医療の役割を担う病院としてチーム医療を推進し、円滑・効率的に協働するために研鑽を図り専門職として、倫理にもとづいた科学的かつ主体性のある看護を目指しています。

【看護部方針】

- 1) 笑顔で相手の立場に立った看護を提供します
- 2) 自己研鑽に努め知識・技術の向上を図ります
- 3) 事故防止と感染予防に努め、安全な看護を提供します
- 4) 快適な療養環境を整え、患者サービスの向上を図ります
- 5) 地域との連携を図り、継続看護に努めます
- 6) 病院の健全経営に参画します

看護部の理念

「救急医療の中核としての役割のもとに、生命の尊厳・人間性を尊重した、こころ温かい看護を提供します。」

教育体制について

看護部は、以下の5つの柱で、看護部教育委員会が中心となり、継続教育を行っています。

- ①「新規採用時教育」②「経年別教育」③「役割別教育」
- ④「全職員対象教育」⑤「雇用別教育」

特に、新人教育では厚生労働省の新人看護職員研修ガイドラインに準じた教育プログラムと、標準的な新卒看護師教育スケジュールバスを作成し研修を実施しています。

年間研修制度



新人教育カリキュラム

「自立したナース」を育てます
 整った新人教育カリキュラムで
 安心して成長できます

教育方針

看護部理念に基づき、専門職業人として時代の変化に対応でき、市民に信頼される質の高い看護が提供できる看護師を育成する

教育目的

組織の一員として責務を遂行するために必要な看護実践能力の獲得・維持・向上および看護職の学習に対する要望を支援することを目的とする



認定看護師について

平成19年に小児救急看護認定看護師が2名誕生して以来、毎年認定看護師教育課程へ派遣し、現在9分野17名の認定看護師が活動しています。

委員会活動やチーム医療のメンバーとして、院内を組織横断的に活動し、看護ケアの質向上・チーム医療の推進に貢献しています。

また、院内のみならず地域での活動の範囲も近年広がっており、他施設への講師派遣等積極的に進めています。

今後は、「新たな認定看護師制度」も視野に入れ、移行に向けた現在の認定看護師への支援も行っていきたいと思います。

【認定看護師紹介】

小児救急看護	3名	梶原 多恵、橋本 優子、伊與田 久美子
脳卒中リハビリ	1名	岩永 妙
救急看護	3名	橋本 真美、井筒 隆博、角田 直也
皮膚排泄ケア	2名	福永 晶子、穴井 恵美
感染管理	2名	中川 祐子、山田 友美
がん化学療法	1名	福永 聡
集中ケア	2名	川崎 久美子、山下 亮
摂食・嚥下障害	2名	最所 麻奈美、尾上 沙也加
認知症看護	1名	塩田 輝美



感染対策研修センター・ 感染制御室

センター長 伊藤 重彦
いとう しげひこ



八幡病院の感染対策活動は、院内感染対策を担う感染制御室と北九州地域感染対策を行う感染対策研修センターの活動に分けられます。

▶ 院内感染対策活動（感染制御室の活動）

感染制御室は、院内感染対策委員会、ICT委員会、抗菌薬適正使用支援チーム、リンクナース会と相互に連携しながら、院内感染対策及び各種サーベイランス、職員の感染対策意識と感染予防対策の技術向上を目指した教育・研修を行っています。

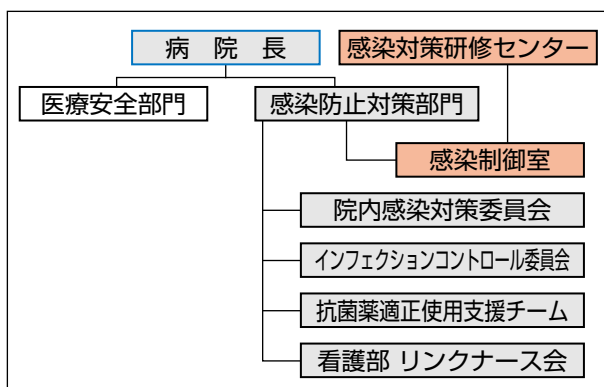
▶ 地域感染対策活動（感染対策研修センターの活動）

感染対策研修センターは、八幡病院内に設置された地域感染対策をおもな業務とするセンターで、保健所、NPO法人KRICT（北九州地域感染制御チーム）¹⁾と連携し、以下のような地域感染対策に係る活動に積極的に取り組んでいます。

1. 赤痢の集団発生を契機に、関連部署職員の感染対策教育の充実・強化を目指して、教育委員会、消防局、NPO法人KRICT、感染対策研修センターが共催して、北九州市職員のための感染対策研修会を年3回開催しています。
2. 北九州地域の感染防止対策加算1、加算2施設50施設以上が参加する感染対策カンファレンス事業、介護施設の感染対策を支援するメディカルスタッフのための感染対策塾²⁾の事務局として活動しています。
3. 北九州市保健所、NPO法人KRICTと連携して、北九州地域の耐性菌、流行性ウイルス疾患のアウトブレイク施設に対する感染対策ラウンドを積極的に行っています。
4. 医療機関向けに、エボラ出血熱、新型インフルエンザ等新興感染症に対する感染対策マニュアルやPPEの着脱手順書等を作成し、八幡病院ホームページ内に記載しています。
5. 地域住民の感染対策意識向上を目指して、けやきプロジェクト等市民向けの公開講座を院内、院外で開催しています。

¹⁾ NPO法人KRICTホームページ（<http://www.krict.org>）

²⁾ メディカルスタッフのための感染対策塾ホームページ（<http://kansenjuku.com>）



院内の感染対策組織図

■ 感染制御室の活動（院内感染対策活動）

- ・微生物サーベイランスとICT活動
- ・抗菌薬サーベイランスとAST活動
- ・院内感染対策ラウンド
- ・インフェクションコントロールニュースの発行
- ・院内感染対策研修会、抗菌薬適正使用研修会の開催

■ 感染対策研修センターの活動（地域感染対策活動）

- ・保健所連携（マニュアル作成、対策助言等）
- ・アウトブレイク施設の感染対策ラウンド
- ・北九州市職員等のための感染対策研修会
- ・加算1、加算2地域連携カンファレンス
- ・介護施設、在宅利用者等への感染対策支援
- ・NPO-KRICT、メディカルスタッフのための感染対策塾との連携

感染制御室、感染対策研修センターのおもな活動

地域医療連携室

～お気軽にご相談ください～

地域医療連携室では、地域の医療機関や施設、行政機関とのパイプ役として、患者さんによりよい医療を提供する窓口業務を担っています。

【主な業務】

- 前方支援 外来受診やセカンドオピニオン、入院受入調整
- 後方支援 転院、施設入所、在宅医療などの調整(退院支援)
- 事務業務 検査紹介の予約受付、紹介状及び返書の管理
- 相談業務 病気やケガに伴う社会的・経済的・心理的問題に対する支援
- 広報業務 医療連携会の開催、地域医療従事者研修、診療科や医師・導入機器のPR、各種要望への対応

スタッフ紹介 15名 (医師1名、看護師6名、社会福祉士3名、事務職員5名)

室長(副院長)	岡本 好司
課長	米澤 美穂子
主幹	井上 勝芳
係長	大塚 由美子、岩永 妙、兼田 朋子、山本 伸一
看護師	川原 恵美子、伊村 ときえ
社会福祉士	長柄 美千乃、外山 陽子、野口 佳絵
事務(委託含む)	大塚 和美、山田 理恵、石田 友美

【医療関係者の方へ】

1. 受診予約について

患者さんのご紹介をFAXでお受けしております。受診前日の18時までに「紹介患者事前連絡票」を地域医療連携室にFAXしてください。

2. CT・MRI等の検査予約について

代表電話から放射線撮影受付を指定して電話で日時を予約してください。

その後、「紹介患者事前連絡票」及び「診療情報提供書(MRI検査依頼等関係書類)」を地域医療連携室にFAXしてください。

3. セカンドオピニオン外来について

当院ではセカンドオピニオン外来を実施しています。当院以外で治療を受けている患者さんに対して、現在の診断や治療に対する意見等を提供いたします。相談内容については担当医から主治医にご報告いたします。

※対象疾患 — 標榜している全診療科に関する疾患

4. 開放病床、登録医について

当院では、地域医療連携の一環として北九州市立八幡病院の病床を利用し、「かかりつけ医」と「当院医師」が協力して通院から入院まで一貫した診療を行うための病床を準備しております。開業医の先生からのご登録をお待ちしております。

5. 地域医療従事者研修について

現在、年に12回の研修プログラムを編成して実施しております。いずれも実際の臨床の現場で行われている治療行為や症例の検討をしています。平日の夕方開始で1時間～2時間の開催です。当院会議室で行われます。

6. 出前講座について

認定看護師による出前講座を行っております。ご希望の際は、お気軽にお声かけください。

7. 在宅療養後方支援について

当院は、在宅において療養を行っている患者さんを、緊急時に受け入れる病院として届け出ています。先生方が診ておられる患者さんが希望された場合にはご登録をお願いいたします。所定の用紙はホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

8. 「とびうめ@きたきゅう」について

「とびうめ@きたきゅう」は、市民の方が受けた医療・介護・健診の一部のデータをネットワークを通じて医療機関等で共有（福岡県医師会の運用する「とびうめネット」を活用）することにより、適切で迅速な医療の提供とスムーズな入退院支援を情報面から支える取り組みです。登録をご希望の方へのお声かけをお願いいたします。



北九州市立 八幡病院 地域医療連携室

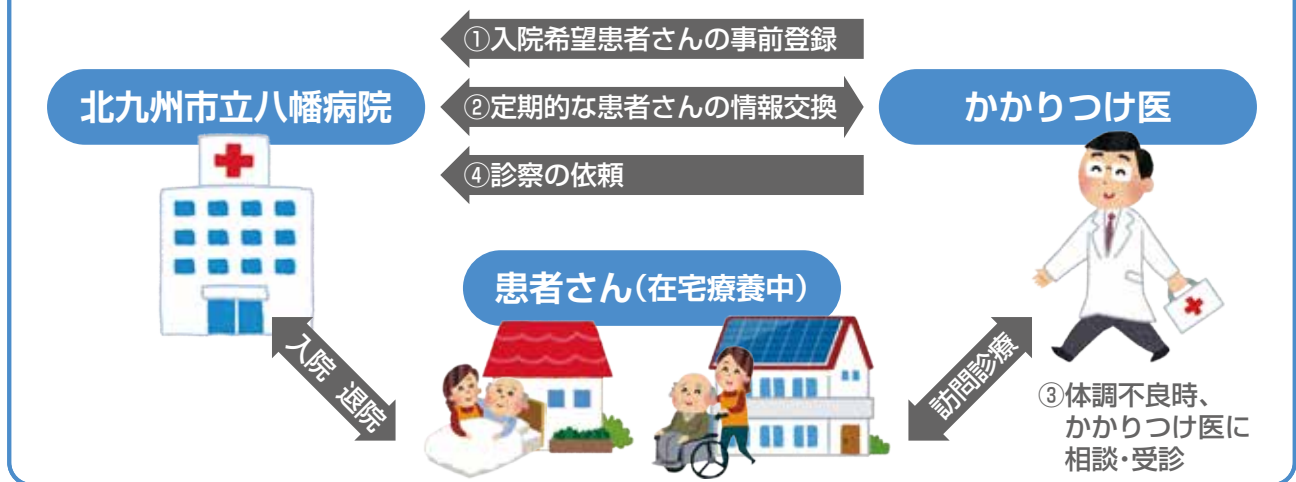
平日 8:30~17:00
TEL: (093) 662-0990 FAX: (093) 662-1909



北九州市立八幡病院「在宅療養後方支援病院」のご案内

当院では診療所の先生方が在宅加療されている患者さん（原則として「在宅療養指導管理料」を算定されている患者さん）が、急性期医療を必要とする場合は、入院を含め24時間対応いたします。なお、やむをえず当院で入院加療が行えない場合は、当院から他の医療機関へのご紹介をいたします。

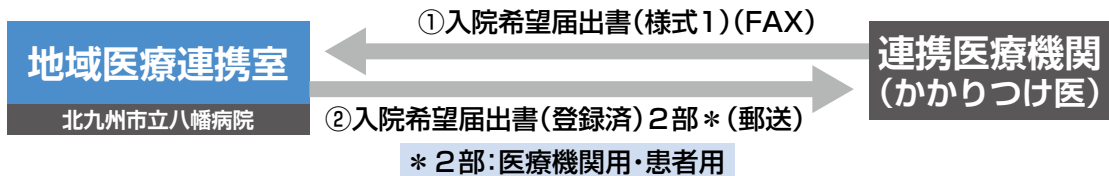
在宅療養後方支援の体制



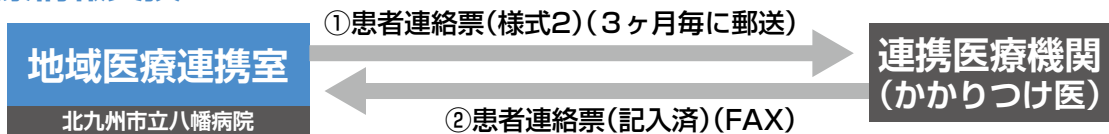
* 入院希望患者登録される際は、以下の点にご留意ください。

- 以下の在宅管理料を算定されている患者さんが対象になります。
在宅時医学総合管理料・特定施設入居時等医学管理料・在宅がん医療総合診療料
在宅療養指導管理料（在宅自己注射指導管理料を除く）を入院前月又は入院月に算定
- 1人の患者さんが複数病院の入院希望登録は行えません。
- 入院時に在宅患者緊急入院加算を算定します。（2,500点 入院時1回のみ）

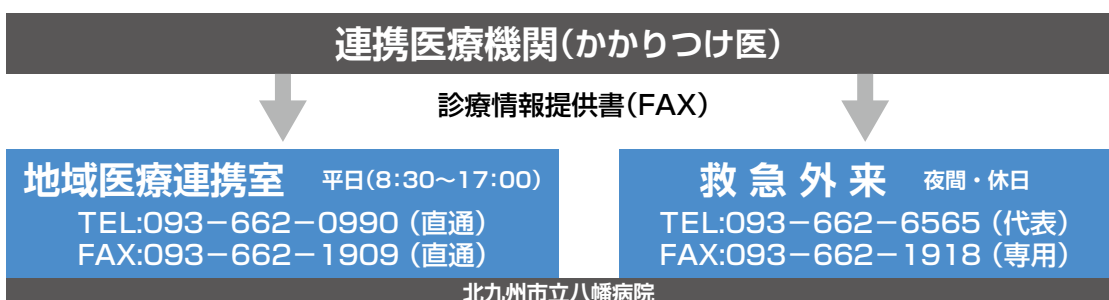
1. 患者さんのご登録



2. 診療情報交換



3. 診療のご依頼



お問い合わせ先：北九州市立八幡病院 医療連携室 平日(8:30~17:00) TEL:093-662-0990(連携室直通)

市民のまんなかに



地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立八幡病院